第5章

地区別構想

1．地区別構想の構成　5-1
2．地区区分の考え方　5-2
3．地区別構想　5-3

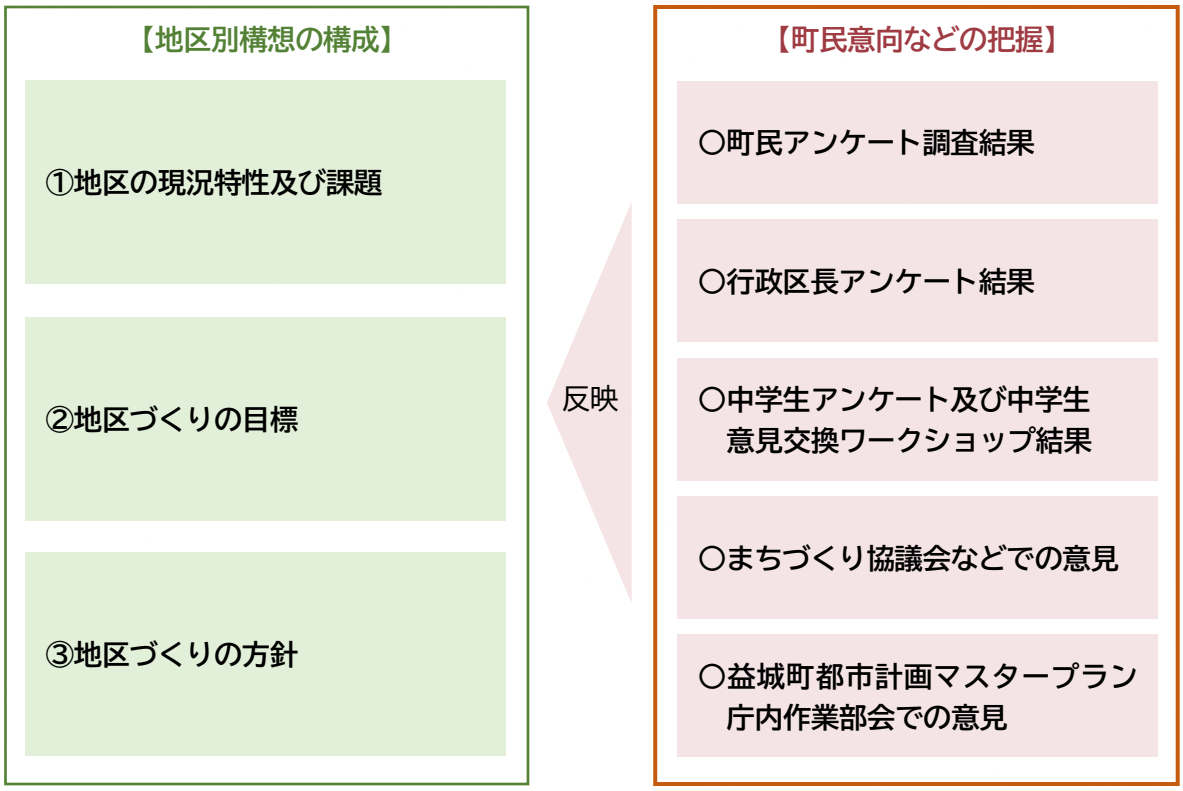
１．地区別構想の構成

地区別構想は、町全体の将来都市構造や全体構想を受け、地区毎の特性に応じたまちづくりの方向性を示すものです。そのため、地区別構想では、「地区の現況特性及び課題」を整理し、それらを踏まえた「地区づくりの目標」を設定して、目標の達成に向けた「地区づくりの方針」を定めます。

《地区別構想の構成》

構　成	内　容
①地区の現況特性及び課題	・地勢や土地利用、人口などに関する現況や将来人口の推計、町民意向（町民アンケート、まちづくり協議会などでの意見抽出）から地区毎の現況特性及び課題の整理を行います。
②地区づくりの目標	・地区毎の現況特性及び課題を踏まえ、将来の地区づくりの目標を設定します。
③地区づくりの方針	・地区づくりの目標を達成するために必要な取組を地区づくりの方針として整理します。

《地区別構想の検討の流れ》



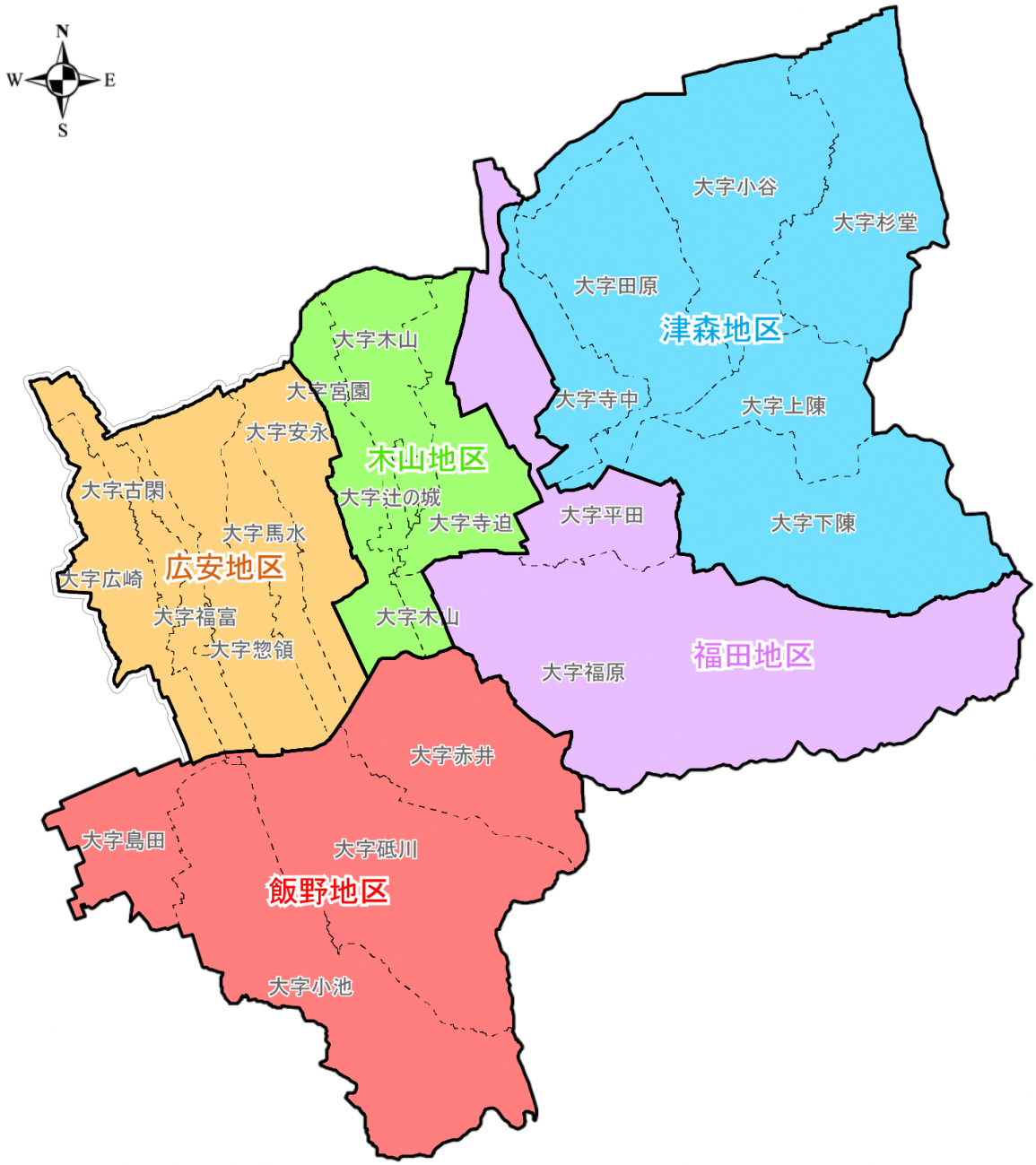
2．地区区分の考え方

地区別構想の地区区分は、旧町村のまとまりである「木山地区」、「広安地区」、「飯野地区」、「福田地区」、「津森地区」とします。

《地区区分と大字》

地区区分	該当する大字
木山地区	大字寺迫、大字木山、大字宮園、大字辻の城
広安地区	大字広崎、大字古閑、大字福富、大字惣領、大字馬水、大字安永
飯野地区	大字赤井、大字砥川、大字小池、大字島田
福田地区	大字福原、大字平田
津森地区	大字上陳、大字杉堂、大字小谷、大字田原、大字寺中、大字下陳

《地区区分図》



3．地区別構想

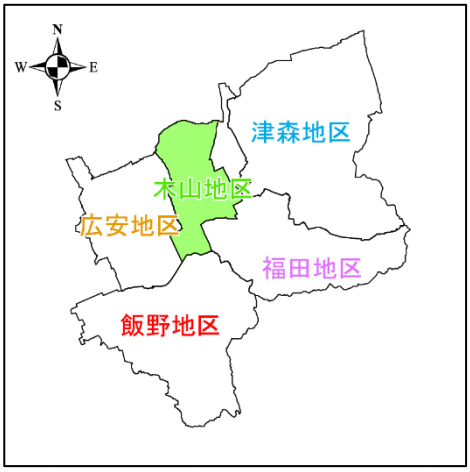
3-1　木山地区

3-1-1 木山地区の現況特性及び課題

(1)地区の現況特性

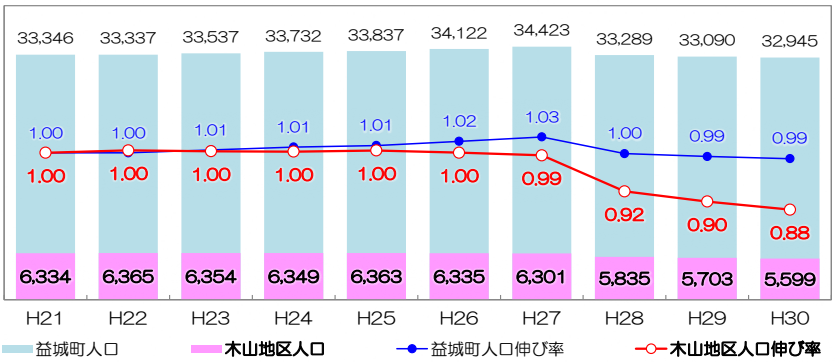
【地区の概要】

・本地区は、町の中央部に位置し、地区内人口 5,599 人(平成 30 年 10 月時点)と町内で二番目に人口が多い
・北部に畑、中西部には住宅用地、南部及び東部に田畑が広がる
・地区内には、「益城町役場仮設庁舎」や「益城町文化会館」、「益城中央小学校」、「木山中学校」が立地
・県道益城菊陽線(旧道)沿道に商業施設や医療施設、産業施設などが立地
・県道熊本益城大津線(第二空港線)や県道熊本高森線、役場仮設庁舎周辺でバスが運行



【地区の人口の推移】

・人口は、平成 26 年以降に減少へ転じ、平成 28 年には熊本地震の影響で更に大きく減少したため、6,000 人を下回った



資料:住民基本台帳(各年 10 月)

【地区の将来人口の推計】

・将来人口(国勢調査年)は、平成 27 年をピークに減少を続け、令和 27 年までに約 1,200 人が減少すると想定されており、町全体と比較し減少割合は高い

資料:国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測プログラム」

（2）町民意向

【現在の満足度】（町民アンケート結果より抜粋　平成 30 年 11 月実施）

・上下水道や身近な自然環境についての満足度が高い

・安全な道路の整備や商業振興、観光振興などについての満足度が低い

調査項目	地区	満足度
上水道が整備され、安心して水道水を利用できる	木山地区	**1.50**
	町全体	1.40
身近な公園や緑地が整備されている	木山地区	0.00
	町全体	−0.37
下水道が整備されている	木山地区	**1.29**
	町全体	1.13
河川が整備されている	木山地区	0.27
	町全体	0.15
スーパーや商店などが充実しており、買い物がしやすい	木山地区	−0.12
	町全体	−0.55
公共交通機関が利用しやすく便利である	木山地区	0.27
	町全体	−0.34
信号や歩道などが適切に設置され、交通安全対策がしっかりしている	木山地区	−0.17
	町全体	−0.34
防犯灯などの防犯対策がしっかりしている	木山地区	0.05
	町全体	0.02
火災・風水害・地震などへの消防・防災体制が整っている	木山地区	0.05
	町全体	−0.08
ごみの減量化や分別回収が充実している	木山地区	0.56
	町全体	0.53
水や緑など自然が身近に感じられる	木山地区	**0.64**
	町全体	0.81
二車線以上ある広い道路が整備され車などで移動しやすい	木山地区	−0.40
	町全体	−0.50
身近な道路が整備され車などで移動しやすい	木山地区	−0.17
	町全体	−0.35
歩道などが整備され、徒歩や自転車、車いすで道路を安全に通行できる	木山地区	**−0.77**
	町全体	−0.85
まち並みや景観が美しい	木山地区	−0.33
	町全体	−0.22

調査項目	地区	満足度
商業やサービス業が盛んである	木山地区	**−0.66**
	町全体	−0.80
工業が盛んである	木山地区	−0.54
	町全体	−0.64
農業が盛んである	木山地区	0.35
	町全体	0.31
働く場、働きやすい環境が整っている	木山地区	−0.40
	町全体	−0.54
町外からの来訪者や観光客が訪れている	木山地区	**−0.62**
	町全体	−0.67
幼稚園・保育所などの施設が充実している	木山地区	0.54
	町全体	0.41
小中学校の教育施設が充実している	木山地区	0.50
	町全体	0.42
文化施設が整っており、文化・芸術活動がしやすい	木山地区	0.34
	町全体	0.17
スポーツ・レクリエーション施設が整っており、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい	木山地区	−0.02
	町全体	−0.16
地域の公民館などの施設が充実している	木山地区	0.15
	町全体	0.12
文化財や伝統行事が大切に守られている	木山地区	0.15
	町全体	0.16
病院や診療所などの福祉・保健・医療施設が整っており、利用しやすい	木山地区	0.29
	町全体	0.02
公共公益施設などのバリアフリー化が進んでおり、誰もが利用しやすい	木山地区	−0.11
	町全体	−0.13
住民がまちづくりに参加しやすい	木山地区	−0.14
	町全体	−0.13
地域に人と人との繋がりがあり、共に支え合い助け合う風土がある	木山地区	0.20
	町全体	0.27
【総合評価】 全体的に益城町は、生活しやすい	木山地区	0.59
	町全体	0.48

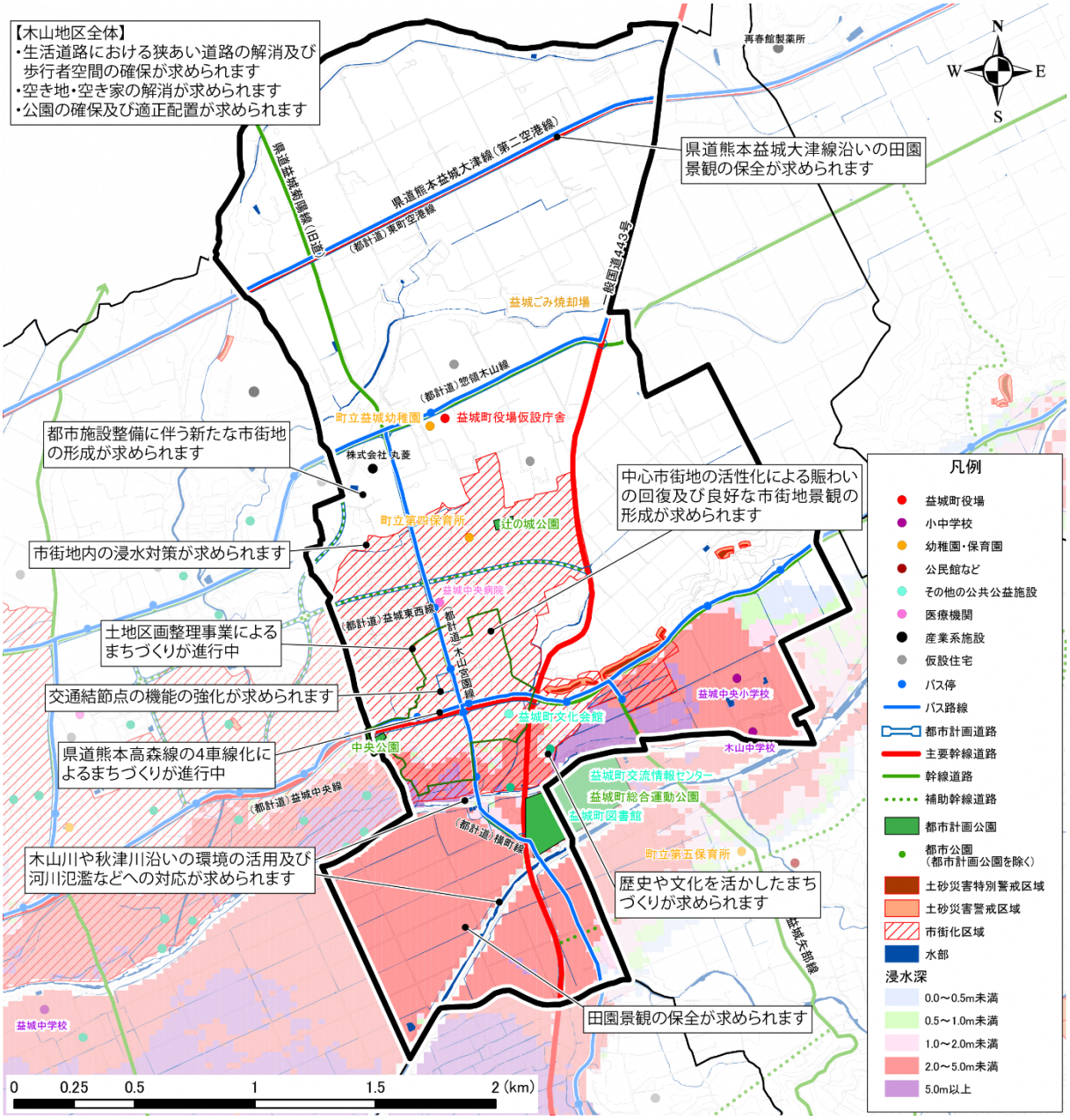
満足度：2（満足）～ −2（不満）

青字：満足度上位 3 項目　　**赤字**：満足度下位 3 項目

（3）地区の主要課題

・町の中心的役割を担う都市拠点として、賑わい回復や都市機能の充実などの中心市街地活性化に向けた取組が求められます。
・防災拠点の形成や雨水排水能力の向上などによる防災機能や減災機能の強化が求められます。
・利便性の高い場所での居住を推進するため、居住環境の改善及び復興区画整理に伴う既成市街地の再生が求められます。
・県道熊本高森線の拡幅などの都市施設整備による居住地の減少に伴い、新たな市街地の形成が求められます。
・熊本都市圏との一体的な都市形成を図るため、都市間の連携強化が求められます。
・都市の風格や魅力を高めるため、良好な市街地景観の形成が求められます。
・木山城跡などの歴史や文化を活かしたまちづくりが求められます。
・防災や減災には住民の自助・共助が不可欠であり、地域防災力向上の取組が求められます。

《木山地区の現況及び課題図》



3-1-2 木山地区の地区づくりの目標

＜地区づくりの目標＞

人が交流し絆を育む 歩いて暮らせる 賑わいのある安全安心な街

3-1-3 木山地区の地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・木山都市拠点においては、復興区画整理の早期実現による良好な市街地の再生を図り、すべての町民が定期的に利用する都市機能の集約を進めます。また、公共サービス利用の向上や賑わいの創出を図るため、町の中心となる新庁舎の整備を進めます。
・県道熊本高森線沿道では、都市間連携軸に相応しい沿道サービス機能の利用促進を図り、主要なバス停周辺への都市機能の誘導に努めます。
・仮設庁舎周辺については、内陸部での安全な防災拠点の確保や町民サービス機能などを有する公共公益施設の整備を図り、複合防災拠点の形成を進めます。
・一般住宅地では、生活に必要な都市機能の立地を許容し、住宅や共同住宅、店舗などの複合的な土地利用を進めます。
・専用住宅地では、戸建住宅を基本とした閑静で住みやすい居住環境の形成を進めます。
・市街化区域での居住地確保などが難しい場合には、土地利用検討エリアにおいて、都市的土地利用への転換の検討を進めます。
・産業形成軸を形成する国道 443 号及び町道グランメッセ木山線沿道については、土地利用調整エリアとして、工業・産業の計画的な集積を図ります。
・土地利用保全エリアの農地や緑地については、地域の重要な農業基盤として、積極的な保全を図ります。

【市街地整備の方針】

・木山都市拠点から惣領地域拠点にかけては、本町の中心市街地として様々な活性化施策を展開し、賑わいの回復を図ります。
・木山都市拠点で進められている復興区画整理の早期実現により、良好な市街地形成を図ります。
・市街化区域内の住宅地では、狭あい道路の解消など生活インフラの整備・改善を進め、良好な居住環境の形成を進めます。
・県道熊本高森線の 4 車線化に伴い、沿道市街地の区画再編などを行うことにより、土地利用の更新や空き地・空き家の解消を図ります。

【道路・交通体系の方針】

・県道熊本高森線は、広域幹線道路であるとともに、熊本都市圏と一体となった都市間連携軸として、4車線化による道路機能の向上に合わせて、公共交通の連携強化を図ります。
・国道 443 号や県道熊本益城大津線（第二空港線）は、町の骨格を形成する広域幹線道路として、町道グランメッセ木山線は産業形成軸として、移動の円滑化を図ります。
・益城中央線や益城東西線、木山宮園線などの都市計画道路の整備を進めます。
・市街化区域内の生活道路においては、緊急車両の走行が可能な幅員の確保による市街地環境の改善に努めます。

・公共交通が不便な地域においては、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行、新たな交通システムの導入などを検討し、交通利便性の向上を図ります。
・木山交差点付近は、町の交通結節点として、交通広場の整備を進め、公共交通の利便性の向上を図ります。

【公園・緑地の方針】
・町民グラウンドは、町民のレクリエーション活動の場として、公園機能の充実を図ります。
・木山都市拠点の復興区画整理区域内では、事業計画に沿って、公園の確保を進めます。
・市街化区域では、日常的な利用と災害時に一時避難地として利用できるよう、一定の規模を有する街区公園や近隣公園などの適正な配置を図ります。
・空き地・空き家などを活用したポケットパークの整備を図るなど、地域の利用者ニーズに対応した公園づくりを図ります。
・木山川や秋津川沿いでは、河川への親水性の向上を図るとともに、河川空間と田園空間を活用した歩行や自転車利用の促進による緑のネットワークの形成を努めます。

【その他都市施設の方針】
・ごみ処理施設については、周辺市町村を対象とした広域的施設として検討を進めます。
・土地利用検討エリアにおいて、新たな市街地としての活用を図る際には、公共下水道事業の整備を図り、良好な居住環境の形成に努めます。
・企業の進出による新たな産業用地などの拡大が発生する場合、必要な都市施設について費用対効果を検証し、その結果を踏まえ、公共下水道などの基盤整備に努めます。
・下水道の整備・維持更新を図り、市街地内の内水対策に努めます。

【景観形成の方針】
・木山都市拠点については、本町の中心市街地に相応しい賑わいのある都市景観の創出に努めます。
・県道熊本高森線沿道は、熊本都市圏との一体的な都市間連携軸として、沿道景観の形成に努めます。
・町道横町線は、歴史、文化、自然を活かした景観形成に努めます。
・市街地内の住宅地においては、地区計画などを活用し、住民主体による良好な居住地形成に努めます。
・木山地区、広安地区、福田地区、津森地区にまたがる県道熊本益城大津線（第二空港線）沿道の田園風景については、一体的な景観軸として、積極的な保全に努めます。また、秋津川以南に広がる田園景観の積極的な保全に努めます。

【都市防災の方針】
・木山川や秋津川に関しては、河川氾濫及び内水氾濫への対策に努めます。また、市街地内においては、氾濫による浸水や冠水などへの対策に努めます。
・市街化区域内においては、安全な場所での防災機能を確保するとともに、避難所の適正な配置を図ります。
・災害時の安全な避難路を確保するため、歩道や緑道などの歩行者空間の整備を図ります。
・地域の防災力を高めるため、避難訓練などの防災活動を積極的に行い、地域住民の自助・共助の意識啓発を進めます。

【都市環境形成の方針】

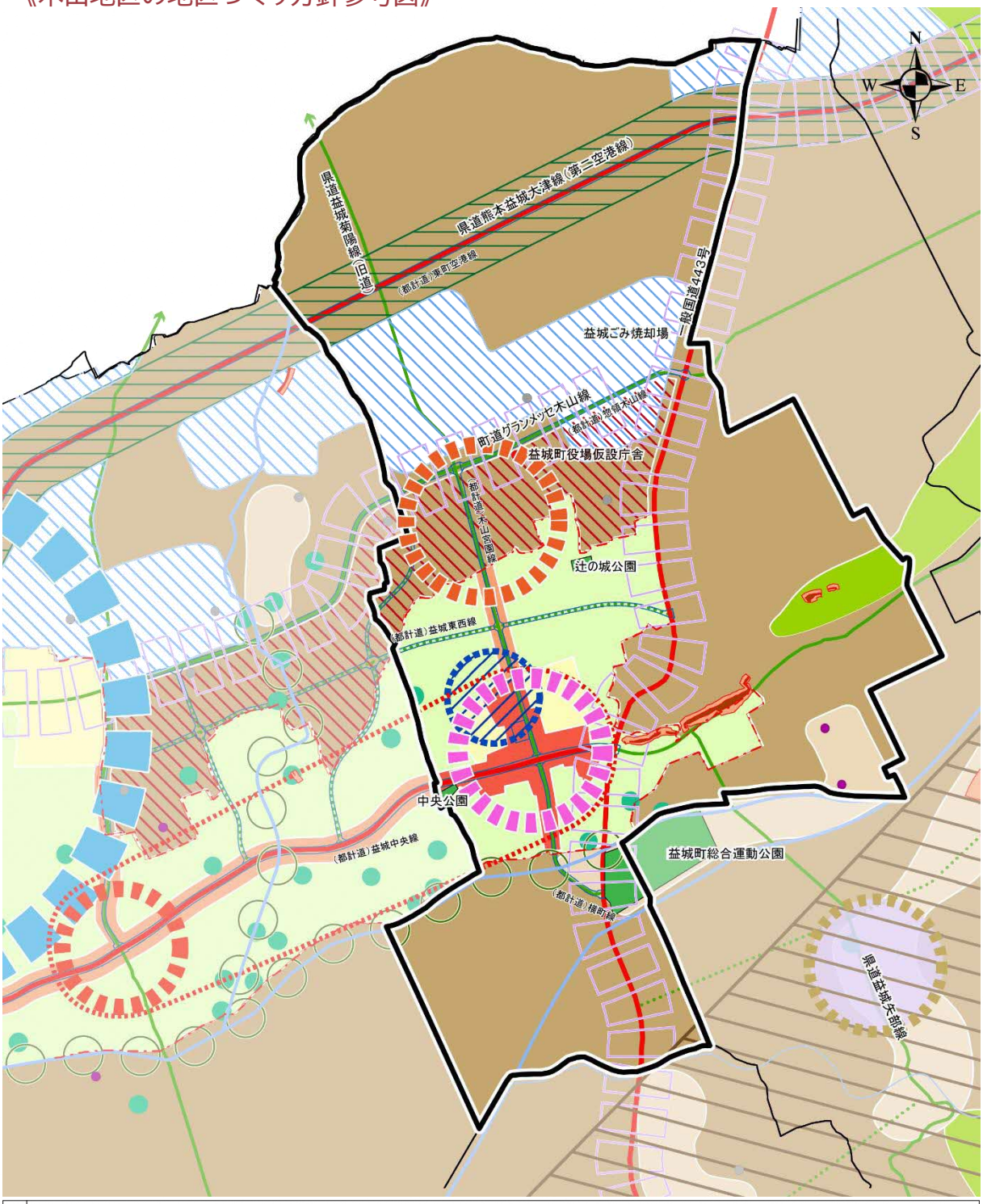
・市街地内では、住居と工場の混在防止など、居住環境の悪化抑制に努めます。

・市街化区域内の道路や公共公益施設は、バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した施設整備を進めます。

▲県道益城菊陽線沿道の市街地

▲木山城跡公園からの眺望

《木山地区の地区づくり方針参考図》



凡例

- 都市拠点
- 地域拠点
- 生活拠点
- 産官学広域連携拠点
- 新産業拠点
- 広域産業拠点
- 複合防災拠点
- 一般住宅地
- 専用住宅地
- 商業・業務地
- 沿道サービス地
- 産業用地
- 土地利用検討エリア
- 集落地（土地利用調整エリア）
- 産業用候補地（土地利用調整エリア）
- 集落地（土地利用保全エリア）
- 農地（土地利用保全エリア）
- 緑地（土地利用保全エリア）
- 産業形成軸
- 中心市街地
- 交通結節点
- 山裾に広がる田園集落地景観
- 沿道の田園景観
- 緑のネットワーク
- 都市計画公園
- 都市公園（都市計画公園を除く）
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 市街化区域界
- 高速道路
- 都市計画道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路
- 補助幹線道路

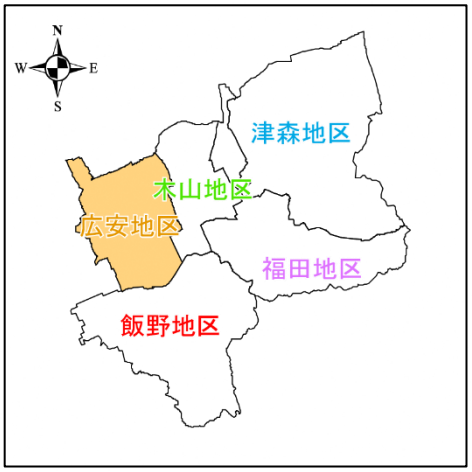
※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。

3-2　広安地区

3-2-1 広安地区の現況特性及び課題

(1)地区の現況特性

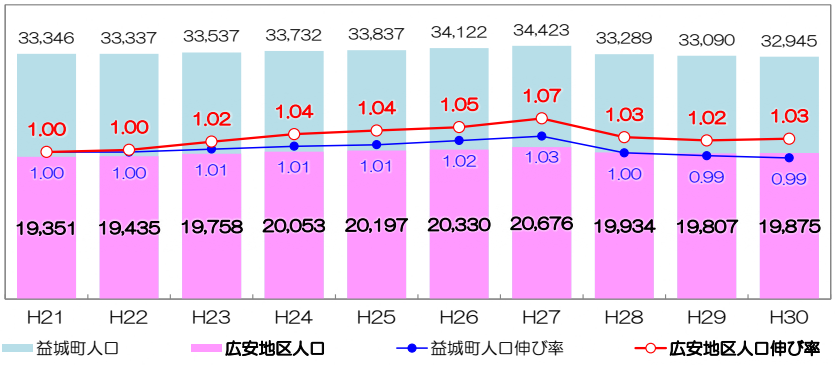
【地区の概要】



・本地区は、町の西部に位置し、地区内人口 19,875 人(平成 30 年 10 月時点)と町内で最も人口が多い
・北部と南部には田畑が広がり、中央に市街地が形成されている
・地区内には、「グランメッセ熊本」、「保健福祉センター」、「広安小学校、広安西小学校」、「益城中学校」が立地
・県道益城菊陽線(新道)や県道熊本高森線沿道に商業施設や医療施設が集積
・益城熊本空港 IC 付近には、工場や物流倉庫、配送センターなどが集積
・県道熊本高森線や県道熊本益城大津線(第二空港線)、町道グランメッセ木山線、県道益城菊陽線(新道)などに熊本市内と阿蘇くまもと空港を結ぶバスが運行

【地区の人口の推移】

・人口は、平成 21 年以降増加を続けていたが、平成 28 年に熊本地震の影響で減少に転じた



資料:住民基本台帳(各年 10 月)

【地区の将来人口の推計】

・将来人口(国勢調査年)は、平成 27 年をピークに減少を続け、令和 27 年までには約 2,400 人が減少すると想定されており、町全体と比較し減少割合は低い

資料:国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測プログラム」

（2）町民意向

【現在の満足度】（町民アンケート結果より抜粋　平成 30 年 11 月実施）

・上下水道や身近な自然環境についての満足度が高い

・安全な道路の整備や商業振興、観光振興などについての満足度が低い

調査項目	地区	満足度
上水道が整備され、安心して水道水を利用できる	広安地区	**1.37**
	町全体	1.40
身近な公園や緑地が整備されている	広安地区	−0.37
	町全体	−0.37
下水道が整備されている	広安地区	**1.16**
	町全体	1.13
河川が整備されている	広安地区	0.12
	町全体	0.15
スーパーや商店などが充実しており、買い物がしやすい	広安地区	−0.22
	町全体	−0.55
公共交通機関が利用しやすく便利である	広安地区	0.24
	町全体	−0.34
信号や歩道などが適切に設置され、交通安全対策がしっかりしている	広安地区	−0.16
	町全体	−0.34
防犯灯などの防犯対策がしっかりしている	広安地区	0.04
	町全体	0.02
火災・風水害・地震などへの消防・防災体制が整っている	広安地区	−0.08
	町全体	−0.08
ごみの減量化や分別回収が充実している	広安地区	0.54
	町全体	0.53
水や緑など自然が身近に感じられる	広安地区	**0.59**
	町全体	0.81
二車線以上ある広い道路が整備され車などで移動しやすい	広安地区	−0.42
	町全体	−0.50
身近な道路が整備され車などで移動しやすい	広安地区	−0.36
	町全体	−0.35
歩道などが整備され、徒歩や自転車、車いすで道路を安全に通行できる	広安地区	**−0.87**
	町全体	−0.85
まち並みや景観が美しい	広安地区	−0.32
	町全体	−0.22

調査項目	地区	満足度
商業やサービス業が盛んである	広安地区	**−0.67**
	町全体	−0.80
工業が盛んである	広安地区	−0.59
	町全体	−0.64
農業が盛んである	広安地区	0.23
	町全体	0.31
働く場、働きやすい環境が整っている	広安地区	−0.46
	町全体	−0.54
町外からの来訪者や観光客が訪れている	広安地区	**−0.62**
	町全体	−0.67
幼稚園・保育所などの施設が充実している	広安地区	0.37
	町全体	0.41
小中学校の教育施設が充実している	広安地区	0.37
	町全体	0.42
文化施設が整っており、文化・芸術活動がしやすい	広安地区	0.14
	町全体	0.17
スポーツ・レクリエーション施設が整っており、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい	広安地区	−0.17
	町全体	−0.16
地域の公民館などの施設が充実している	広安地区	0.07
	町全体	0.12
文化財や伝統行事が大切に守られている	広安地区	0.09
	町全体	0.16
病院や診療所などの福祉・保健・医療施設が整っており、利用しやすい	広安地区	0.16
	町全体	0.02
公共公益施設などのバリアフリー化が進んでおり、誰もが利用しやすい	広安地区	−0.09
	町全体	−0.13
住民がまちづくりに参加しやすい	広安地区	−0.17
	町全体	−0.13
地域に人と人との繋がりがあり、共に支え合い助け合う風土がある	広安地区	0.15
	町全体	0.27
【総合評価】 全体的に益城町は、生活しやすい	広安地区	0.51
	町全体	0.48

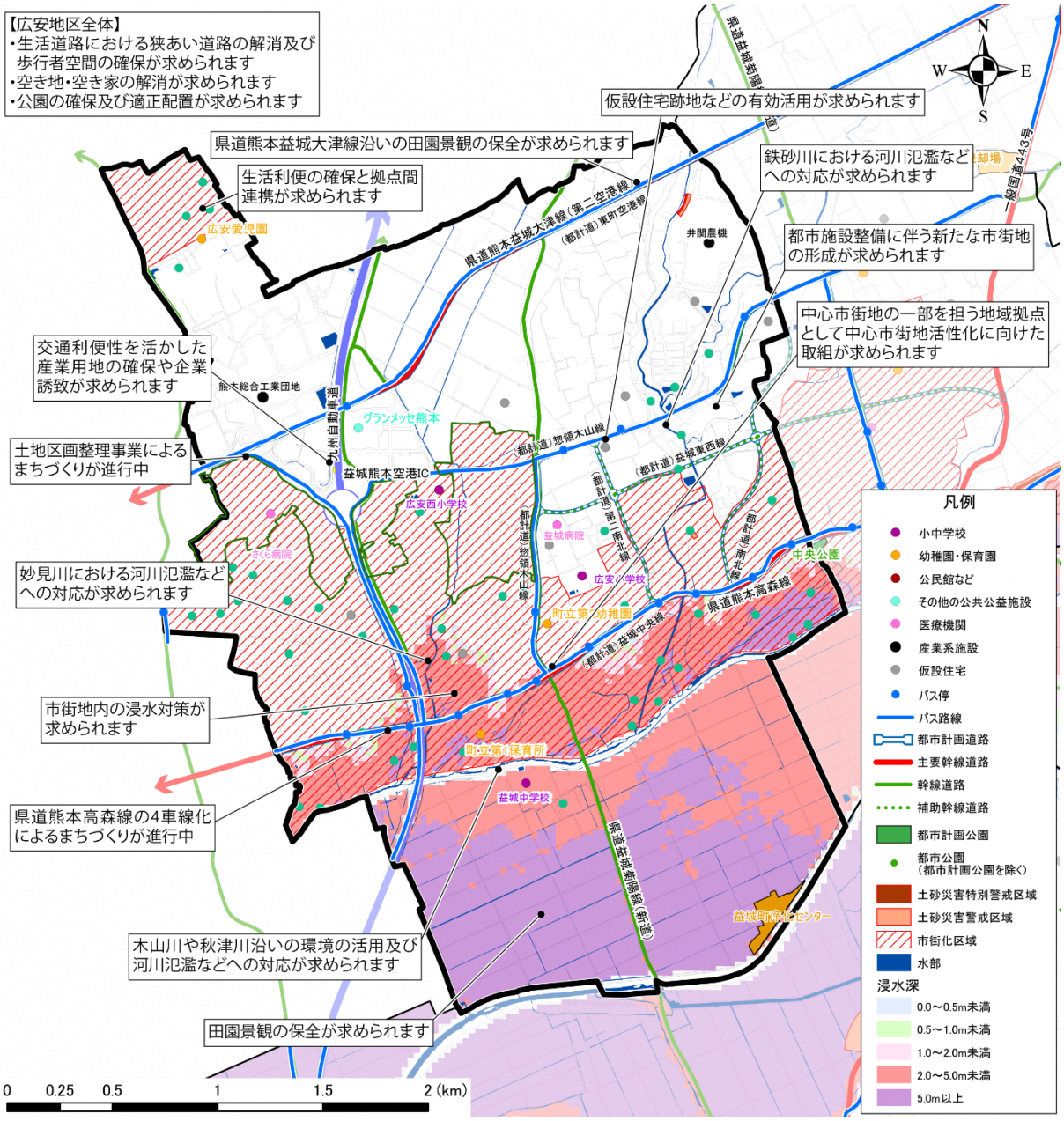
満足度：2（満足）～ −2（不満）

青字：満足度上位 3 項目　**赤字**：満足度下位 3 項目

（3）地区の主要課題

・中心市街地の一部を担う地域拠点として、賑わい回復や都市機能の充実などの中心市街地活性化に向けた取組が求められます。
・益城熊本空港 IC の交通利便性を活かした産業用地の確保が求められます。
・利便性の高い場所での居住を推進するため、居住環境の改善による既成市街地の再生及び土地区画整理事業による良好な市街地の形成が求められます。
・県道熊本高森線の拡幅などの都市施設整備による居住地の減少に伴い、新たな市街地の形成が求められます。
・熊本都市圏との一体的な都市形成を図るため、都市間の連携強化が求められます。
・都市の風格や魅力を高めるため、良好な市街地景観の形成が求められます。
・防災や減災には住民の自助・共助が不可欠であり、地域防災力向上の取組が求められます。

《広安地区の現況及び課題図》



3-2-2 広安地区の地区づくりの目標

<地区づくりの目標>

地域コミュニティが盛んで楽しく明るく暮らせる
居住性に優れた住み心地の良い街

3-2-3 広安地区の地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・惣領地域拠点は、地域住民の生活利便性を確保するため、都市拠点を補完する地域拠点に相応しい都市機能の集約を進めるとともに、質の高い生活環境の形成を図ります。
・小峯生活拠点では地区レベルの生活利便性の確保と拠点間連携を進めます。
・益城熊本空港 IC 周辺については、産業用地の確保や流通、工業などの企業誘致、周辺へのアクセス性の向上などを図り、物流・製造業を中心とした新産業拠点の形成を進めます。
・県道熊本高森線沿道では、都市間連携軸に相応しい沿道サービス機能の利用促進を図り、主要なバス停周辺に都市機能の誘導を努めます。
・一般住宅地では、生活に必要な都市機能の立地を許容し、住宅や共同住宅、店舗などの複合的な土地利用を進めます。
・専用住宅地では、戸建住宅を基本とした閑静で住みやすい居住環境の形成を進めます。
・市街地内の産業用地では、周辺の居住地との混在に配慮し、適正な用途への見直しを進めます。
・市街化区域での居住地確保などが難しい場合には、土地利用検討エリアにおいて、都市的土地利用への転換の検討を進めます。
・産業形成軸を形成する町道グランメッセ木山線沿道については、土地利用調整エリアとして、工業・産業の計画的な集積を図ります。
・土地利用保全エリアの農地や緑地については、地域の重要な農業基盤として、積極的な保全を図ります。

【市街地整備の方針】

・木山都市拠点から惣領地域拠点にかけては、本町の中心市街地として様々な活性化施策を展開し、賑わいの回復を図ります。
・益城熊本空港 IC 周辺に計画されている土地区画整理事業の早期実現による良好な市街地形成を推進します。
・市街化区域内の住宅地では、狭あい道路の解消など生活インフラの整備・改善を進め、良好な居住環境の形成を進めます。
・県道熊本高森線の 4 車線化に伴い、沿道市街地の区画再編などを行うことにより、土地利用の更新や空き地・空き家の解消を図ります。

【道路・交通体系の方針】

・県道熊本高森線は、広域幹線道路であるとともに、熊本都市圏と一体となった都市間連携軸として、4車線化による道路機能の向上に合わせて、公共交通の連携強化を図ります。
・県道熊本益城大津線（第二空港線）は、町の骨格を形成する広域幹線道路として、町道グランメッセ木山線は産業形成軸として、移動の円滑化を図ります。
・益城中央線や益城東西線、惣領木山線、第二南北線の都市計画道路の整備を進めます。
・一体の都市として都市計画道路のネットワークを形成するため、西側地区での新たな都市計画道路の検討に努めます。

・市街化区域内の生活道路においては、緊急車両の走行が可能な幅員の確保による市街地環境の改善に努めます。
・公共交通が不便な地域においては、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行、新たな交通システムの導入などを検討し、交通利便性の向上を図ります。

【公園・緑地の方針】
・益城台地土地区画整理事業区域内では、事業計画に沿って、公園の確保を進めます。
・市街化区域では、日常的な利用と災害時に一時避難地として利用できるよう、一定の規模を有する街区公園や近隣公園などの適正な配置を図ります。特に、公園が不足する西側の市街地では、速やかに公園整備に関する計画づくりを進めます。
・空き地・空き家などを活用したポケットパークの整備を図るなど、地域の利用者ニーズに対応した公園づくりを図ります。
・木山川や秋津川沿いでは、河川への親水性の向上を図るとともに、河川空間と田園空間を活用した歩行や自転車利用の促進による緑のネットワークの形成を努めます。また、秋津川や鉄砂川沿いでは、遊歩道や親水公園などの親水空間の整備利活用に努めます。

【その他都市施設の方針】
・本町の公共下水道の終末処理施設となる益城町浄化センターについては、安定した浄化処理能力を確保するため、施設の維持・充実を図ります。
・土地利用検討エリアにおいて、新たな市街地としての活用を図る際には、公共下水道事業の整備を図り、良好な居住環境の形成に努めます。
・企業の進出による新たな産業用地などの拡大が発生する場合、必要な都市施設について費用対効果を検証し、その結果を踏まえ、公共下水道などの基盤整備に努めます。
・下水道の整備・維持更新を図り、市街地内の内水対策に努めます。

【景観形成の方針】
・県道熊本高森線沿道は、熊本都市圏との一体的な都市間連携軸として、沿道景観の形成に努めます。
・市街地内の住宅地においては、地区計画などを活用し、住民主体による良好な居住地形成に努めます。
・木山地区、広安地区、福田地区、津森地区にまたがる県道熊本益城大津線（第二空港線）沿道の田園風景については、一体的な景観軸として、積極的な保全に努めます。

【都市防災の方針】
・木山川や秋津川、鉄砂川、妙見川に関しては、河川氾濫及び内水氾濫への対策に努めます。また、市街地内においては、氾濫による浸水や冠水などへの対策に努めます。
・市街化区域内においては、安全な場所での防災機能を確保するとともに、避難所の適正な配置を図ります。ただし、河川沿いに位置する益城中学校は、木山川及び秋津川氾濫時の浸水想定区域内にあるため、豪雨災害時にも安心して避難できる場所の確保を検討します。
・災害時の安全な避難路を確保するため、歩道や緑道などの歩行者空間の整備を図ります。
・地域の防災力を高めるため、避難訓練などの防災活動を積極的に行い、地域住民の自助・共助の意識啓発を進めます。

【都市環境形成の方針】

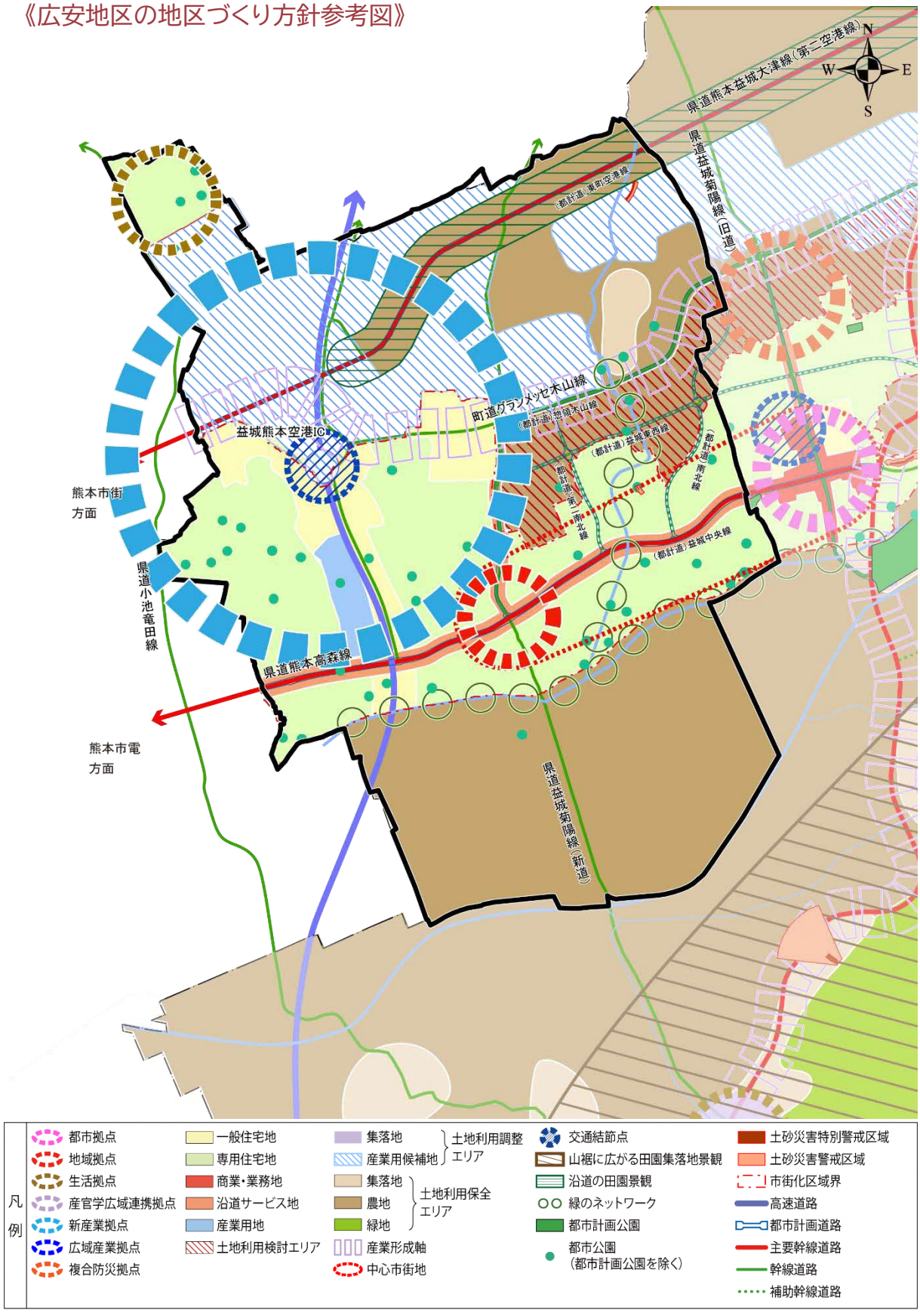
・市街地内では、住居と工場の混在防止など、居住環境の悪化抑制に努めます。

・市街化区域内の道路や公共公益施設は、バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した施設整備を進めます。

▲県道熊本高森線沿道の市街地

▲益城熊本空港 IC

《広安地区の地区づくり方針参考図》



※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。

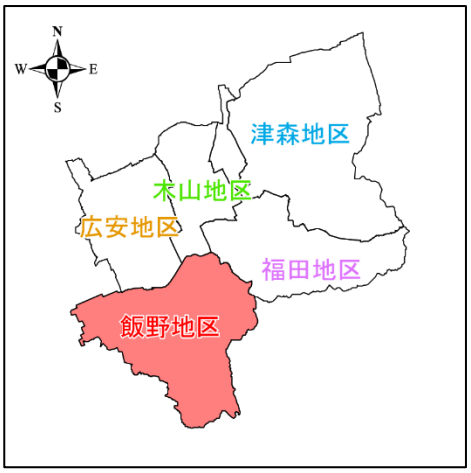
3-3　飯野地区

3-3-1 飯野地区の現況特性及び課題

(1)地区の現況特性

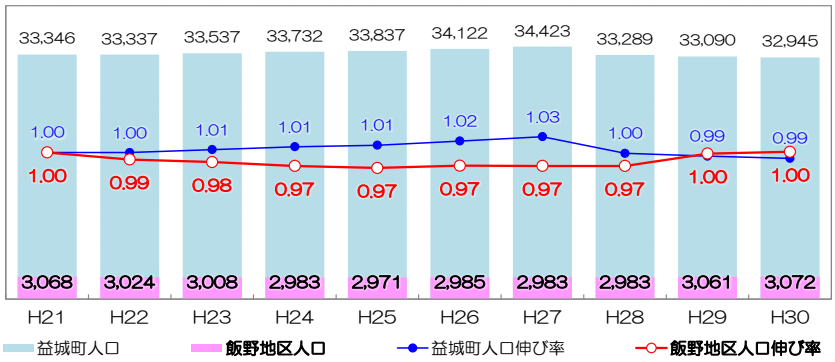
【地区の概要】

・本地区は、町の南部に位置し、地区内人口 3,072 人(平成 30 年 10 月時点)と町内で三番目に人口が多い
・北部に田畑、南部に山林が広がり、中央に市街地が形成されている
・南部の山林には、広大なゴルフ場が立地
・地区内には、「飯野小学校」が立地
・国道 443 号沿道に小売店舗が立地
・西部には、産業施設が立地
・国道 443 号及び県道小池竜田線にバスが運行



【地区の人口の推移】

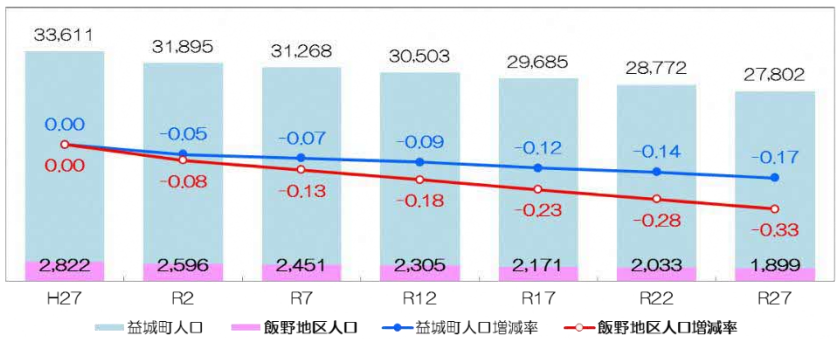
・人口は、平成 25 年までは減少傾向にあったが、平成 29 年からは増加に転じ、現在は 3,000 人を上回った



資料:住民基本台帳(各年 10 月)

【地区の将来人口の推計】

・将来人口(国勢調査年)は、平成 27 年をピークに減少を続け、令和 27 年には約 1,000 人が減少すると想定されており、町全体と比較し減少割合は高い



資料:国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測プログラム」

（2）町民意向

【現在の満足度】（町民アンケート結果より抜粋　平成 30 年 11 月実施）

・上下水道や身近な自然環境についての満足度が高い

・安全な道路の整備や商業振興、観光振興などについての満足度が低い

調査項目	地区	満足度
上水道が整備され、安心して水道水を利用できる	飯野地区	**1.38**
	町全体	1.40
身近な公園や緑地が整備されている	飯野地区	−0.99
	町全体	−0.37
下水道が整備されている	飯野地区	**1.38**
	町全体	1.13
河川が整備されている	飯野地区	0.12
	町全体	0.15
スーパーや商店などが充実しており、買い物がしやすい	飯野地区	**−1.26**
	町全体	−0.55
公共交通機関が利用しやすく便利である	飯野地区	**−1.31**
	町全体	−0.34
信号や歩道などが適切に設置され、交通安全対策がしっかりしている	飯野地区	−0.66
	町全体	−0.34
防犯灯などの防犯対策がしっかりしている	飯野地区	−0.21
	町全体	0.02
火災・風水害・地震などへの消防・防災体制が整っている	飯野地区	−0.28
	町全体	−0.08
ごみの減量化や分別回収が充実している	飯野地区	0.42
	町全体	0.53
水や緑など自然が身近に感じられる	飯野地区	**1.15**
	町全体	0.81
二車線以上ある広い道路が整備され車などで移動しやすい	飯野地区	−0.53
	町全体	−0.50
身近な道路が整備され車などで移動しやすい	飯野地区	−0.36
	町全体	−0.35
歩道などが整備され、徒歩や自転車、車いすで道路を安全に通行できる	飯野地区	−0.78
	町全体	−0.85
まち並みや景観が美しい	飯野地区	0.08
	町全体	−0.22

調査項目	地区	満足度
商業やサービス業が盛んである	飯野地区	**−1.00**
	町全体	−0.80
工業が盛んである	飯野地区	−0.70
	町全体	−0.64
農業が盛んである	飯野地区	0.41
	町全体	0.31
働く場、働きやすい環境が整っている	飯野地区	−0.69
	町全体	−0.54
町外からの来訪者や観光客が訪れている	飯野地区	−0.75
	町全体	−0.67
幼稚園・保育所などの施設が充実している	飯野地区	0.17
	町全体	0.41
小中学校の教育施設が充実している	飯野地区	0.41
	町全体	0.42
文化施設が整っており、文化・芸術活動がしやすい	飯野地区	0.06
	町全体	0.17
スポーツ・レクリエーション施設が整っており、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい	飯野地区	−0.46
	町全体	−0.16
地域の公民館などの施設が充実している	飯野地区	0.16
	町全体	0.12
文化財や伝統行事が大切に守られている	飯野地区	0.39
	町全体	0.16
病院や診療所などの福祉・保健・医療施設が整っており、利用しやすい	飯野地区	−0.29
	町全体	0.02
公共公益施設などのバリアフリー化が進んでおり、誰もが利用しやすい	飯野地区	−0.11
	町全体	−0.13
住民がまちづくりに参加しやすい	飯野地区	−0.13
	町全体	−0.13
地域に人と人との繋がりがあり、共に支え合い助け合う風土がある	飯野地区	0.48
	町全体	0.27
【総合評価】 全体的に益城町は、生活しやすい	飯野地区	0.48
	町全体	0.48

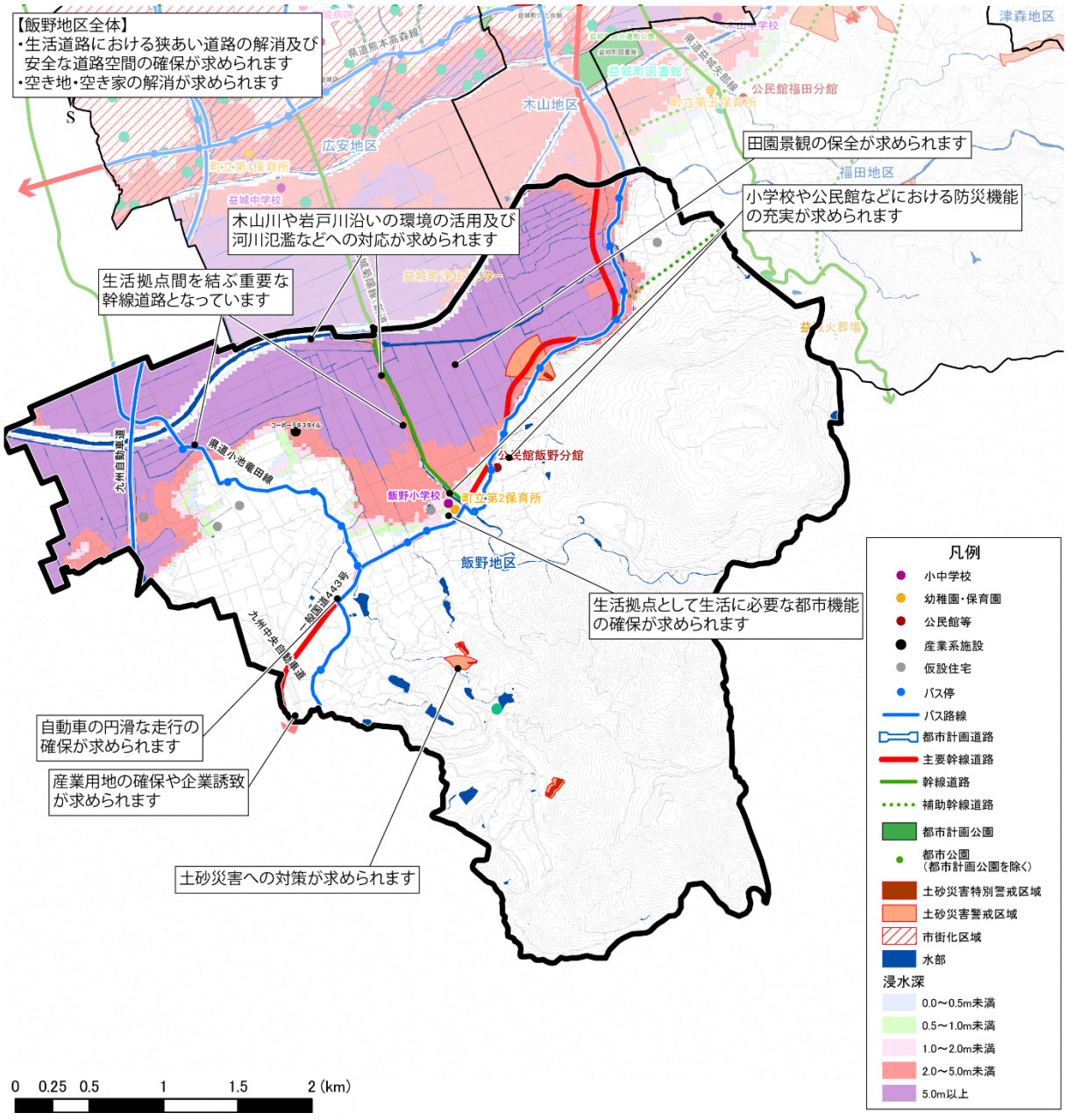
満足度：2（満足）～ −2（不満）

青字：満足度上位 3 項目　　**赤字**：満足度下位 3 項目

（3）地区の主要課題

・集落内における人口減少や高齢化が進行しており、地区内住民の生活利便性の低下への対応が求められます。
・小池高山 IC の交通利便を活かし、嘉島町や御船町に形成された産業用地と一体となった産業拠点の形成が求められます。
・本町の一次産業を支える農業生産基盤の維持・保全が求められます。
・集落内で空き地・空き家などが見られており、空き家の活用や除却、空き地や未利用地の活用が求められます。
・地区内の路線バスの維持や、点在する集落間を結び都市拠点などへと接続する公共交通の確保が求められます。
・魅力ある田園集落景観の保全が求められます。
・防災や減災には住民の自助・共助が不可欠であり、地域防災力向上の取組が求められます。

《飯野地区の現況及び課題図》



3-3-2 飯野地区の地区づくりの目標

<地区づくりの目標>

水と緑が調和した 自然に恵まれた住み心地の良い田園集落地

3-3-3 飯野地区の地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・飯野小学校周辺に位置づけられた飯野生活拠点では、市街化調整区域内であるものの、生活に必要な都市機能を確保するため、市街化調整区域の土地利用規制緩和や地域再生計画などを活用し、集落の維持に努めます。
・小池高山 IC 周辺については、産業用地の確保や企業誘致などを図り、嘉島町や御船町と一体となった広域産業拠点の形成を進めます。
・産業形成軸を形成する国道 443 号沿道については、土地利用調整エリアとして、工業・産業の計画的な集積を図ります。
・土地利用保全エリアの農地や緑地については、地域の重要な農業基盤として、積極的な保全を図ります。
・高齢化の進行している飯野地域では、今後、空き地・空き家が増加していくことが懸念されるため、地域の活性化に向けた土地利用の順化に努めます。

【道路・交通体系の方針】

・国道 443 号は、町の骨格を形成する広域幹線道路であり、産業形成軸として、移動の円滑化を図ります。
・県道益城菊陽線や県道小池竜田線は、各拠点とを結ぶ幹線道路として、道路機能の維持・強化に努めます。
・集落内の主要な生活道路については、緊急車両の走行が可能な幅員の確保に努めます。
・公共交通については、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行、新たな交通システムの導入などを検討し、交通不便の解消を図ります。

【公園・緑地の方針】

・集落内においては、空き地・空き家などを活用したポケットパークの整備など、地域の利用者ニーズに対応した公園づくりを図ります。
・飯野生活拠点を流れる岩戸川や都市拠点とを結ぶ木山川においては、河川空間と田園空間を活用した歩行や自転車利用の促進による緑のネットワークの形成に努めます。また、山地においては、トレッキングや散策などを楽しめるルート整備などに努めます。

【その他都市施設の方針】

・集落地内においては、下水道の維持整備などを図り、居住環境の保全に努めます。
・集落地内の浸水対策に努めます。
・企業の進出による新たな産業用地などの拡大が発生する場合、必要な都市施設について費用対効果を検証し、その結果を踏まえ、公共下水道などの基盤整備に努めます。

【景観形成の方針】

・広大な農地と集落の景観、河川沿いの緑地景観は、地域の田園風景を構成する重要な要素であるため、1次産業の振興と連携した積極的な保全を図ります。

・飯田山や船野山の山裾に広がる田園集落地は、赤井城跡や社寺が点在し、歴史資源と調和した趣のある景観を有しているため、その保全に努めます。

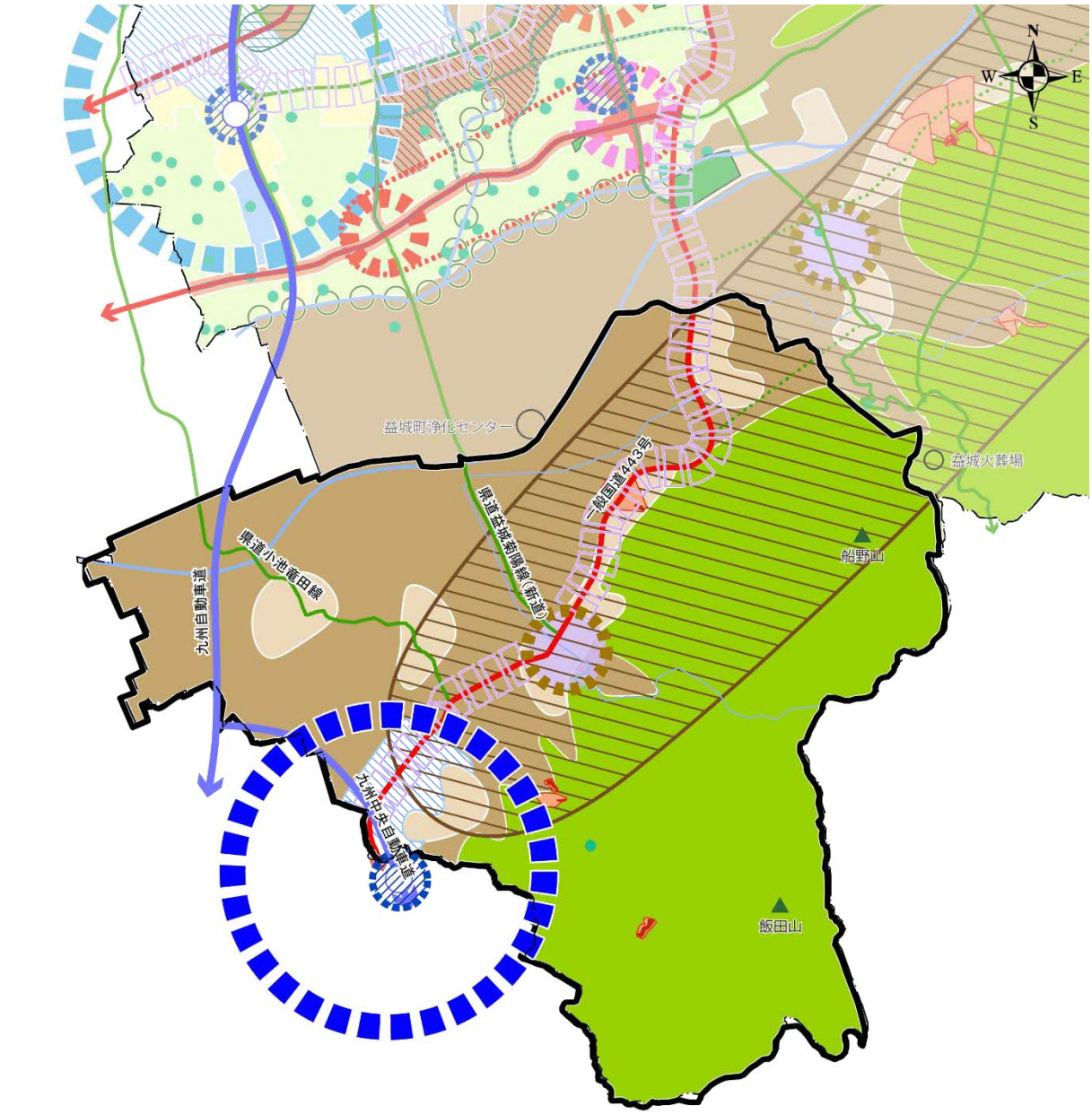
【都市防災の方針】

・木山川や岩戸川、赤井川に関しては、河川氾濫への対策に努めます。
・集落地内においては、浸水区域の浸水対策や土砂災害の対策に努めます。
・災害時の避難場所となる小学校や公民館については、防災機能の充実を進め、避難路の安全性の確保に努めます。
・地域の防災力を高めるため、避難訓練などの防災活動を積極的に行い、地域住民の自助・共助の意識啓発を進めます。

▲飯野生活拠点の集落

▲飯野地区の田園集落地

《飯野地区の地区づくり方針参考図》



凡例

都市拠点	一般住宅地	集落地	交通結節点	土砂災害特別警戒区域
地域拠点	専用住宅地	産業用候補地（土地利用調整エリア）	山裾に広がる田園集落地景観	土砂災害警戒区域
生活拠点	商業・業務地	集落地	沿道の田園景観	市街化区域界
産官学広域連携拠点	沿道サービス地	農地（土地利用保全エリア）	緑のネットワーク	高速道路
新産業拠点	産業用地	緑地	都市計画公園	都市計画道路
広域産業拠点	土地利用検討エリア	産業形成軸	都市公園（都市計画公園を除く）	主要幹線道路
複合防災拠点		中心市街地		幹線道路
				補助幹線道路

※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。

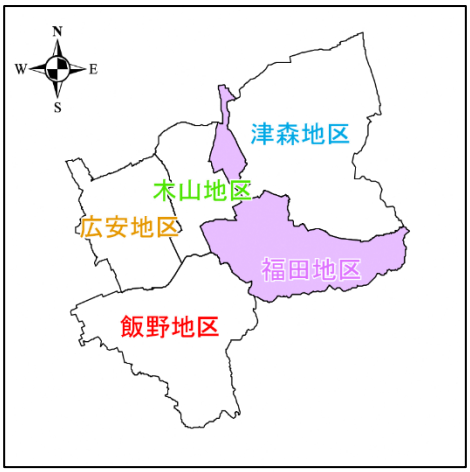
3-4　福田地区

3-4-1 福田地区の現況特性及び課題

(1)地区の現況特性

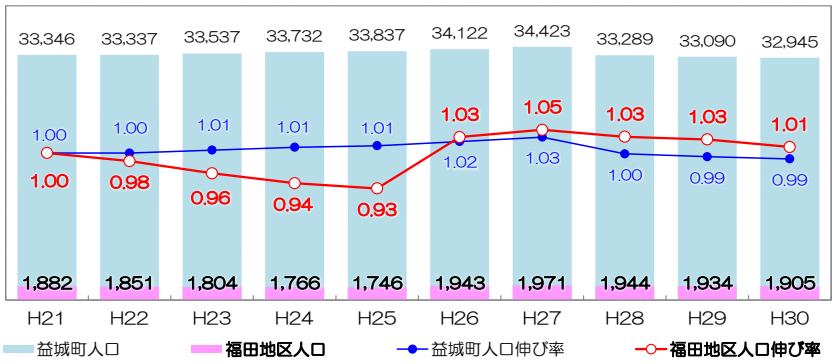
【地区の概要】

・本地区は、町の南東部に位置し、地区内人口 1,905 人(平成 30 年 10 月時点)と町内で最も人口が少ない
・北部に物流施設や畑、中部に田や住宅地、南東部に畑及び山林が広がっている
・地区内には、「益城町総合運動公園」、「益城町交流情報センター(図書館)」、「益城火葬場」が立地
・地区内に商業施設は、ほとんど見られないものの、北部には工場や物流センターなどが集積
・県道熊本益城大津線(第二空港線)や県道熊本高森線にバスが運行しているが、バス停は存在していない



【地区の人口の推移】

・人口は、平成 22 年以降減少傾向にあったが、平成 26 年に大きく増加し、平成 28 年に減少に転じた



資料:住民基本台帳(各年 10 月)

【地区の将来人口の推計】

・将来人口(国勢調査年)は、平成 27 年をピークに減少を続け、令和 27 年には約 600 人が減少すると想定されており、町全体と比較し減少割合は高い

資料:国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測プログラム」

（2）町民意向

【現在の満足度】（町民アンケート結果より抜粋　平成 30 年 11 月実施）

・上下水道や身近な自然環境についての満足度が高い

・安全な道路の整備や商業振興、観光振興などについての満足度が低い

調査項目	地区	満足度
上水道が整備され、安心して水道水を利用できる	福田地区	**1.43**
	町全体	1.40
身近な公園や緑地が整備されている	福田地区	−0.53
	町全体	−0.37
下水道が整備されている	福田地区	**1.28**
	町全体	1.13
河川が整備されている	福田地区	0.01
	町全体	0.15
スーパーや商店などが充実しており、買い物がしやすい	福田地区	**−1.25**
	町全体	−0.55
公共交通機関が利用しやすく便利である	福田地区	**−1.29**
	町全体	−0.34
信号や歩道などが適切に設置され、交通安全対策がしっかりしている	福田地区	−0.80
	町全体	−0.34
防犯灯などの防犯対策がしっかりしている	福田地区	0.17
	町全体	0.02
火災・風水害・地震などへの消防・防災体制が整っている	福田地区	−0.10
	町全体	−0.08
ごみの減量化や分別回収が充実している	福田地区	0.53
	町全体	0.53
水や緑など自然が身近に感じられる	福田地区	**1.17**
	町全体	0.81
二車線以上ある広い道路が整備され車などで移動しやすい	福田地区	−0.81
	町全体	−0.50
身近な道路が整備され車などで移動しやすい	福田地区	−0.65
	町全体	−0.35
歩道などが整備され、徒歩や自転車、車いすで道路を安全に通行できる	福田地区	−0.98
	町全体	−0.85
まち並みや景観が美しい	福田地区	−0.24
	町全体	−0.22

調査項目	地区	満足度
商業やサービス業が盛んである	福田地区	**−1.17**
	町全体	−0.80
工業が盛んである	福田地区	−0.89
	町全体	−0.64
農業が盛んである	福田地区	0.32
	町全体	0.31
働く場、働きやすい環境が整っている	福田地区	−0.72
	町全体	−0.54
町外からの来訪者や観光客が訪れている	福田地区	−0.89
	町全体	−0.67
幼稚園・保育所などの施設が充実している	福田地区	0.54
	町全体	0.41
小中学校の教育施設が充実している	福田地区	0.56
	町全体	0.42
文化施設が整っており、文化・芸術活動がしやすい	福田地区	0.30
	町全体	0.17
スポーツ・レクリエーション施設が整っており、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい	福田地区	−0.01
	町全体	−0.16
地域の公民館などの施設が充実している	福田地区	0.24
	町全体	0.12
文化財や伝統行事が大切に守られている	福田地区	0.10
	町全体	0.16
病院や診療所などの福祉・保健・医療施設が整っており、利用しやすい	福田地区	−0.48
	町全体	0.02
公共公益施設などのバリアフリー化が進んでおり、誰もが利用しやすい	福田地区	−0.24
	町全体	−0.13
住民がまちづくりに参加しやすい	福田地区	−0.06
	町全体	−0.13
地域に人と人との繋がりがあり、共に支え合い助け合う風土がある	福田地区	0.43
	町全体	0.27
【総合評価】 全体的に益城町は、生活しやすい	福田地区	0.37
	町全体	0.48

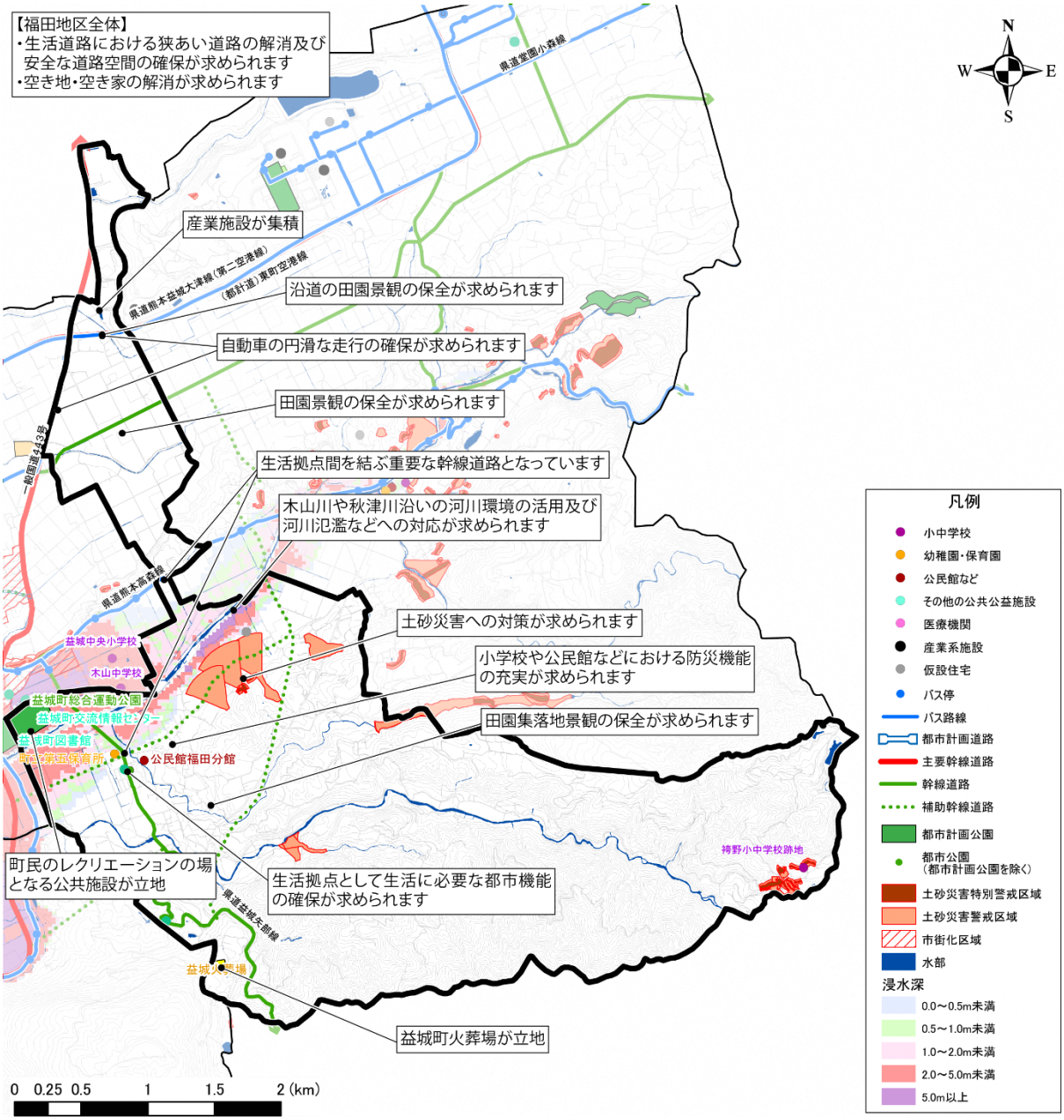
満足度：2（満足）～ −2（不満）

青字：満足度上位 3 項目　**赤字**：満足度下位 3 項目

（3）地区の主要課題

・集落内における人口減少や高齢化が進行しており、地区内住民の生活利便性の低下への対応が求められます。
・公共施設が集積する益城町総合運動公園や益城町交流情報センター（図書館）周辺については、レクリエーション機能の充実が求められます。また、これらのレクリエーション機能を活かしたまちづくりが求められます。
・本町の一次産業を支える農業生産基盤の維持・保全が求められます。
・集落内で空き地・空き家などが見られており、空き家の活用や除却、空き地や未利用地の活用が求められます。
・点在する集落間を結び都市拠点などへと接続する公共交通の確保が求められます。
・魅力ある田園集落景観の保全が求められます。
・防災や減災には住民の自助・共助が不可欠であり、地域防災力向上の取組が求められます。

《福田地区の現況及び課題図》



3-4-2 福田地区の地区づくりの目標

<地区づくりの目標>

自然と身近に触れあえ たくさんの人が交流する清流と農業の郷

3-4-3 福田地区の地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・福田郵便局周辺に位置づけられた福田生活拠点では、益城町総合運動公園などのレクリエーション活動の場と連携した田園集落地の形成を進めます。また、市街化調整区域内であるものの、地域住民の日常生活を支える拠点として、生活に必要な都市機能を確保するため、市街化調整区域の土地利用規制緩和や地域再生計画などを活用し、集落の維持に努めます。
・国道 443 号と県道熊本益城大津線(第二空港線)との交差点北側は、既存企業を含めた産業用地の確保に努めます。
・産業形成軸を形成する国道 443 号及び県道熊本益城大津線(第二空港線)沿道については、土地利用調整エリアとして、工業・産業の計画的な集積を図ります。
・土地利用保全エリアの農地や緑地については、地域の重要な農業基盤として、積極的な保全を図ります。
・高齢化の進行している福田地域では、今後、空き地・空き家が増加していくことが懸念されるため、地域の活性化に向けた土地利用の順化に努めます。

【道路・交通体系の方針】

・国道 443 号や県道熊本益城大津線(第二空港線)は、町の骨格を形成する広域幹線道路であり、産業形成軸として、移動の円滑化を図ります。
・県道熊本高森線や県道益城矢部線は、各拠点とを結ぶ幹線道路として、道路機能の維持・強化に努めます。
・集落内の主要な生活道路については、緊急車両の走行が可能な幅員の確保に努めます。
・公共交通については、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行、新たな交通システムの導入などを検討し、交通不便の解消を図ります。

【公園・緑地の方針】

・益城町総合運動公園は、町民のレクリエーション活動の場として、公園機能の充実を図ります。
・震災遺構である谷川断層帯は、観光資源としての活用を図るため、必要な施設の整備を検討します。
・集落内においては、空き地・空き家などを活用したポケットパークの整備など、地域の利用者ニーズに対応した公園づくりを図ります。
・地区と都市拠点とを結ぶ木山川や秋津川及び赤井川においては、河川空間と田園空間を活用した歩行や自転車利用の促進による緑のネットワークの形成を努めます。また、秋津川沿いでは、遊歩道や親水公園などの親水空間の整備利活用に努めます。
・山地においては、トレッキングや散策などを楽しめるルート整備などに努めます。

【その他都市施設の方針】

・都市施設である益城火葬場については、施設の老朽化や町民ニーズに対応するため、施設の維持・充実を図ります。
・集落地内においては、下水道の維持整備などを図り、居住環境の保全に努めます。

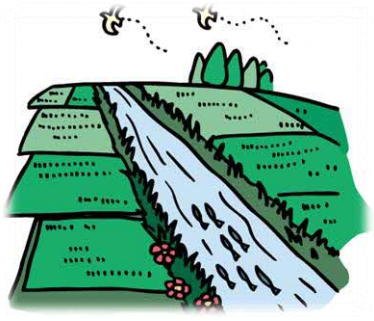
・集落地内の浸水対策に努めます。
・企業の進出による新たな産業用地などの拡大が発生する場合、必要な都市施設について費用対効果を検証し、その結果を踏まえ、公共下水道などの基盤整備に努めます。

【景観形成の方針】
・広大な農地と集落の景観、河川沿いの緑地景観は、地域の田園風景を構成する重要な要素であるため、1次産業の振興と連携した積極的な保全を図ります。
・木山地区、広安地区、福田地区、津森地区にまたがる県道熊本益城大津線（第二空港線）沿道の田園風景については、一体的な景観軸として、積極的な保全に努めます。
・朝来山の山裾に広がる田園集落地は、社寺などの歴史資源と調和した趣のある景観を有しているため、その保全に努めます。

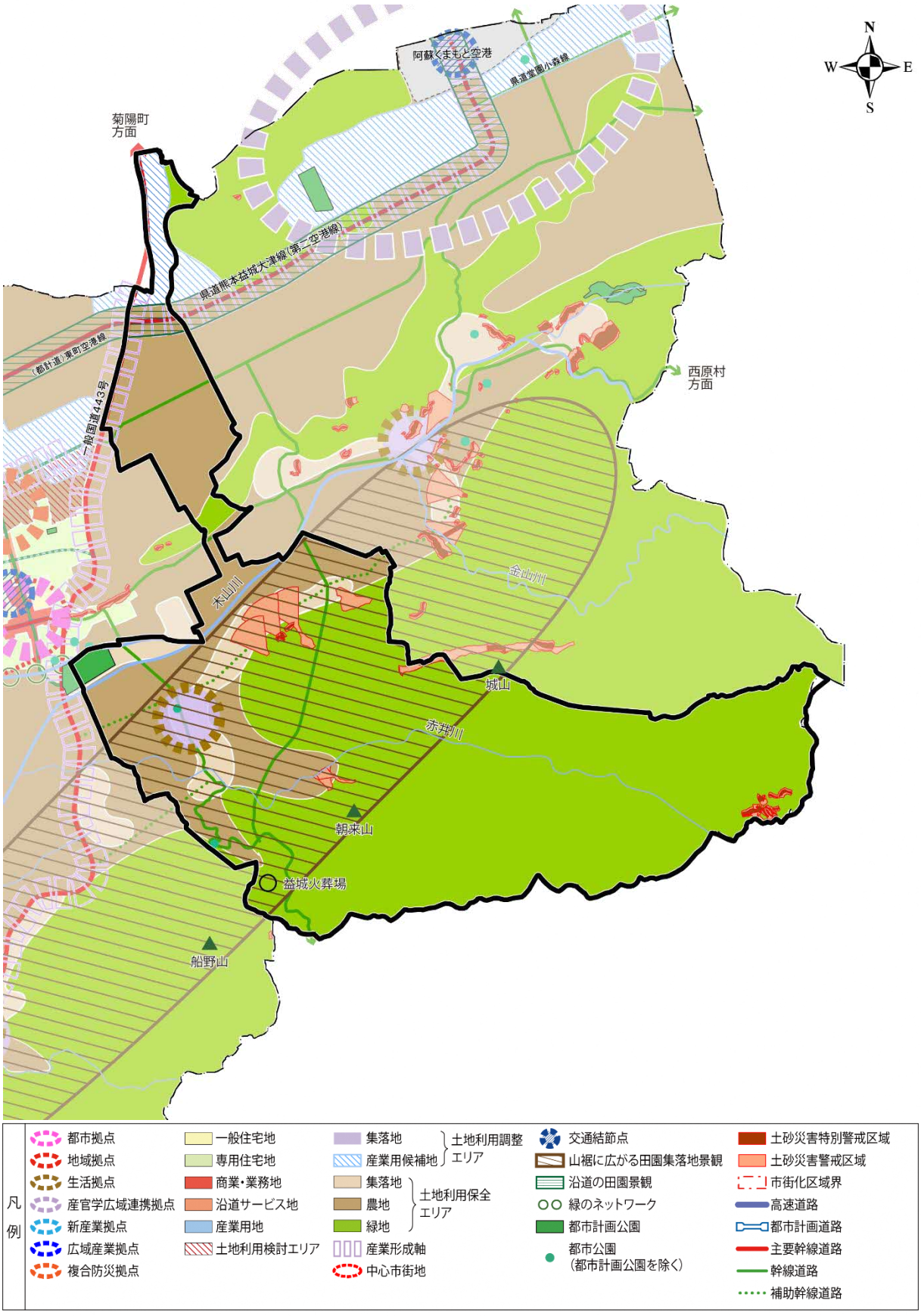
【都市防災の方針】
・木山川や赤井川に関しては、河川氾濫への対策に努めます。
・集落地内においては、浸水区域の浸水対策や土砂災害の対策に努めます。
・災害時の避難場所となる小学校や公民館については、防災機能の充実を進め、避難路の安全性の確保に努めます。ただし、河川沿いに位置する木山中学校や益城中央小学校は、木山川氾濫時の浸水想定区域内にあるため、豪雨災害時にも安心して避難できる場所の確保を検討します。
・地域の防災力を高めるため、避難訓練などの防災活動を積極的に行い、地域住民の自助・共助の意識啓発を進めます。

▲福田生活拠点の集落

▲秋津川河川敷



《福田地区の地区づくり方針参考図》



※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。

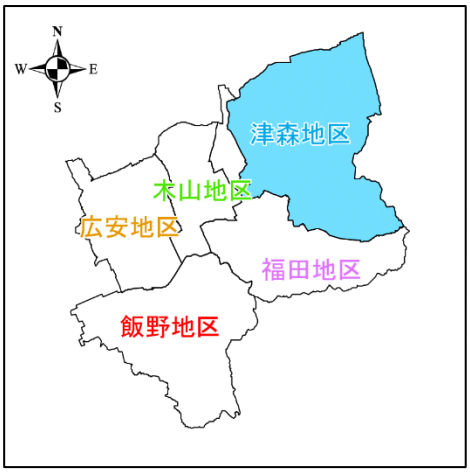
3-5　津森地区

3-5-1 津森地区の現況特性及び課題

(1)地区の現況特性

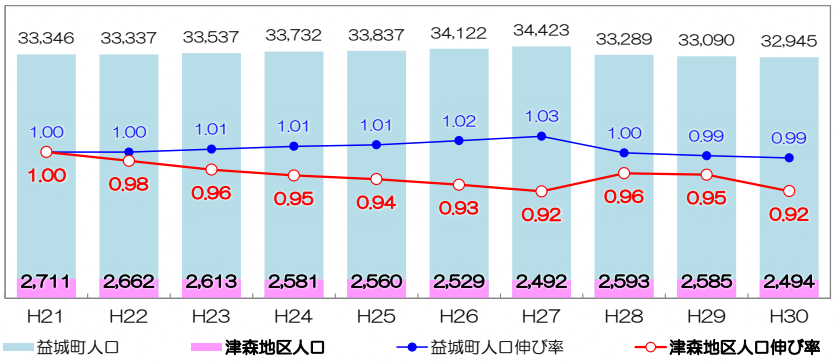
【地区の概要】

・本地区は、町の北東部に位置し、地区内人口 2,494 人(平成 30 年 10 月時点)と町内で二番目に人口が少ない
・北部は空港施設や畑、中西部は田及び住宅用地、東部や南部は山林が広がっている
・地区内には、「テクノ中央緑地」や「潮井自然公園」などの公園・緑地、「津森小学校」や「公民館津森分館」などの公共公益施設が立地
・北部の阿蘇くまもと空港の周辺に、「テクノリサーチパーク」などの産業施設や宿泊及び商業施設が立地
・県道熊本益城大津線(第二空港線)や県道熊本高森線にバスが運行



【地区の人口の推移】

・人口は、平成 22 年以降減少傾向にあったが、平成 28 年に増加し、再び減少に転じた



資料:住民基本台帳(各年 10 月)

【地区の将来人口の推計】

・将来人口(国勢調査年)は、平成 27 年をピークに減少を続け、令和 27 年には約 700 人が減少すると想定されており、町全体と比較し減少割合は高い

資料:国勢調査、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測プログラム」

（2）町民意向

【現在の満足度】（町民アンケート結果より抜粋　平成 30 年 11 月実施）

・上水道や身近な自然環境、農業振興についての満足度が高い

・買い物や公共交通などの利便性や商業振興についての満足度が低い

調査項目	地区	満足度
上水道が整備され、安心して水道水を利用できる	津森地区	1.09
	町全体	1.40
身近な公園や緑地が整備されている	津森地区	−0.80
	町全体	−0.37
下水道が整備されている	津森地区	0.03
	町全体	1.13
河川が整備されている	津森地区	−0.15
	町全体	0.15
スーパーや商店などが充実しており、買い物がしやすい	津森地区	**−1.54**
	町全体	−0.55
公共交通機関が利用しやすく便利である	津森地区	**−1.45**
	町全体	−0.34
信号や歩道などが適切に設置され、交通安全対策がしっかりしている	津森地区	−0.89
	町全体	−0.34
防犯灯などの防犯対策がしっかりしている	津森地区	−0.24
	町全体	0.02
火災・風水害・地震などへの消防・防災体制が整っている	津森地区	−0.50
	町全体	−0.08
ごみの減量化や分別回収が充実している	津森地区	0.06
	町全体	0.53
水や緑など自然が身近に感じられる	津森地区	**0.99**
	町全体	0.81
二車線以上ある広い道路が整備され車などで移動しやすい	津森地区	−0.82
	町全体	−0.50
身近な道路が整備され車などで移動しやすい	津森地区	−0.61
	町全体	−0.35
歩道などが整備され、徒歩や自転車、車いすで道路を安全に通行できる	津森地区	−1.17
	町全体	−0.85
まち並みや景観が美しい	津森地区	−0.27
	町全体	−0.22

調査項目	地区	満足度
商業やサービス業が盛んである	津森地区	**−1.30**
	町全体	−0.80
工業が盛んである	津森地区	−0.91
	町全体	−0.64
農業が盛んである	津森地区	**0.41**
	町全体	0.31
働く場、働きやすい環境が整っている	津森地区	−0.85
	町全体	−0.54
町外からの来訪者や観光客が訪れている	津森地区	−0.94
	町全体	−0.67
幼稚園・保育所などの施設が充実している	津森地区	0.32
	町全体	0.41
小中学校の教育施設が充実している	津森地区	0.33
	町全体	0.42
文化施設が整っており、文化・芸術活動がしやすい	津森地区	−0.13
	町全体	0.17
スポーツ・レクリエーション施設が整っており、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい	津森地区	−0.31
	町全体	−0.16
地域の公民館などの施設が充実している	津森地区	−0.02
	町全体	0.12
文化財や伝統行事が大切に守られている	津森地区	0.14
	町全体	0.16
病院や診療所などの福祉・保健・医療施設が整っており、利用しやすい	津森地区	−0.46
	町全体	0.02
公共公益施設などのバリアフリー化が進んでおり、誰もが利用しやすい	津森地区	−0.38
	町全体	−0.13
住民がまちづくりに参加しやすい	津森地区	−0.27
	町全体	−0.13
地域に人と人との繋がりがあり、共に支え合い助け合う風土がある	津森地区	0.38
	町全体	0.27
【総合評価】 全体的に益城町は、生活しやすい	津森地区	−0.08
	町全体	0.48

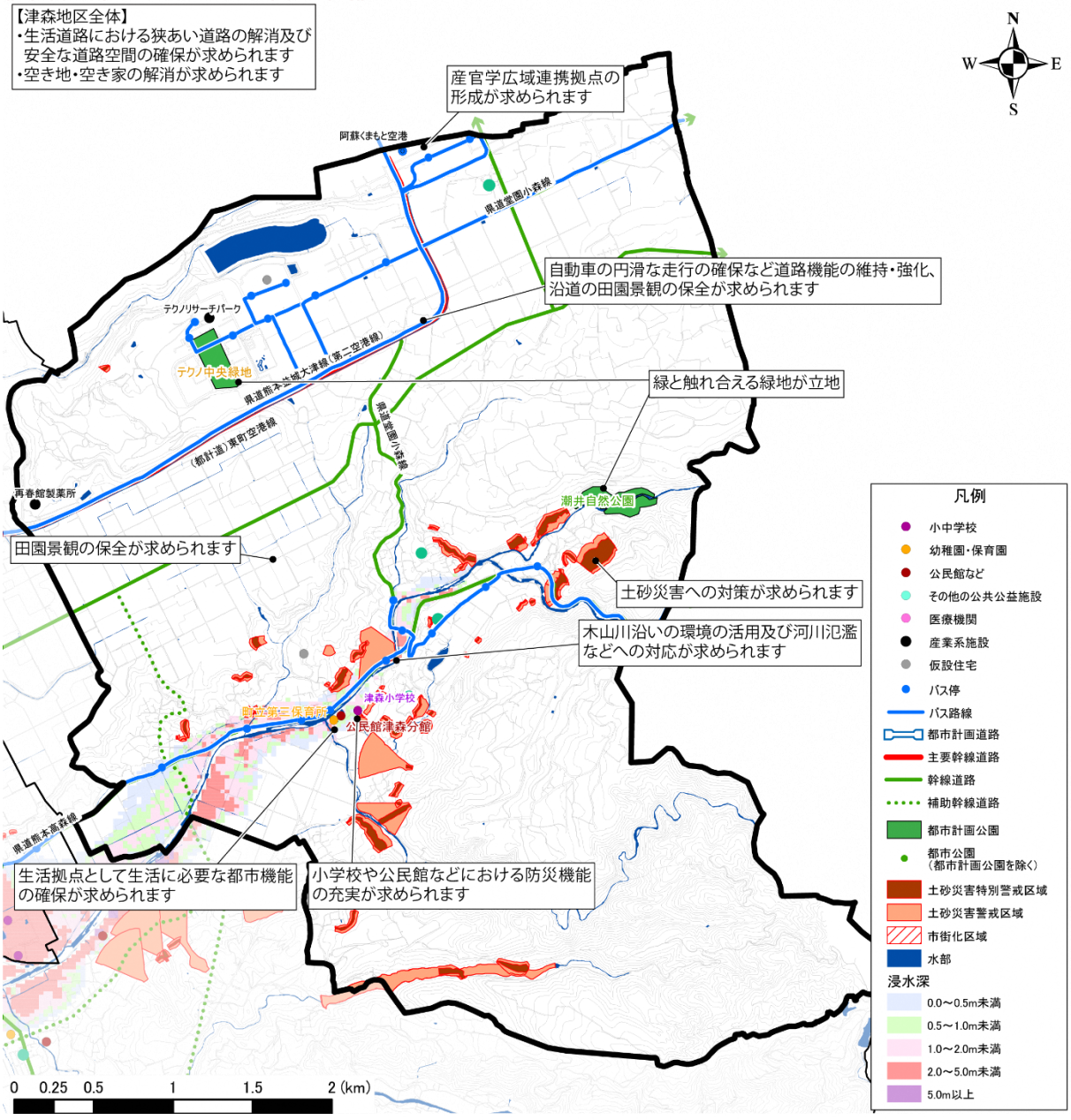
満足度：2（満足）～ −2（不満）

赤字：満足度上位 3 項目　　**青字**：満足度下位 3 項目

（3）地区の主要課題

・集落内における人口減少や高齢化が進行しており、地区内住民の生活利便性の低下への対応が求められます。
・木山川の潤いを活かしたまちづくりが求められます。
・熊本県の空の玄関口である阿蘇くまもと空港のポテンシャルを活かした産業立地の機会損失を防ぐため、産業用地の確保が求められます。
・テクノリサーチパークへの企業誘致及び拡充が求められます。
・本町の一次産業を支える農業生産基盤の維持・保全が求められます。
・集落内で空き地・空き家などが見られており、空き家の活用や除却、空き地や未利用地の活用が求められます。
・地区内の路線バスの維持や、点在する集落間を結び都市拠点などへと接続する公共交通の確保が求められます。
・魅力ある田園集落景観の保全が求められます。
・防災や減災には住民の自助・共助が不可欠であり、地域防災力向上の取組が求められます。

《津森地区の現況及び課題図》



3-5-2 津森地区の地区づくりの目標

<地区づくりの目標>

教育や自然、歴史をつなぐ 伝統とゆとりの里

3-5-3 津森地区の地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・津森小学校周辺に位置づけられた津森生活拠点では、木山川の潤いを活かしたまちづくりを進めます。また、市街化調整区域内であるものの、地域住民の日常生活を支える拠点として、生活に必要な都市機能を確保するため、市街化調整区域の土地利用規制緩和や地域再生計画などを活用し、集落の維持に努めます。
・阿蘇くまもと空港周辺については、ポテンシャルを活かし、テクノリサーチパークの拡充や産業用地の確保、企業誘致などを図るとともに、周辺市町村との連携や東海大学をはじめとする大学との学術的な連携を行う産官学広域連携拠点の形成を進めます。
・土地利用保全エリアの農地や緑地については、地域の重要な農業基盤として、積極的な保全を図ります。
・高齢化の進行している津森地域では、今後、空き地・空き家が増加していくことが懸念されるため、地域の活性化に向けた土地利用の順化に努めます。

【道路・交通体系の方針】

・県道熊本益城大津線（第二空港線）は、町の骨格を形成する広域幹線道路であり、産業形成軸として、自動車の円滑な走行の確保を図ります。
・県道熊本高森線は、各拠点とを結ぶ幹線道路として、道路機能の維持・強化に努めます。
・集落内の主要な生活道路については、緊急車両の走行が可能な幅員の確保に努めます。
・公共交通については、コミュニティバスやデマンドタクシーの運行、新たな交通システムの導入などを検討し、交通不便の解消を図ります。

【公園・緑地の方針】

・潮井自然公園は、町民が身近に緑と触れ合える憩いの自然環境空間であり、施設の維持・充実及びアクセス道路の整備を図ります。
・潮井自然公園内の四賢婦人記念館などの歴史資源や隣接する布田川断層帯の魅力と連携した教育、観光、レクレーションの場として活用を図ります。
・集落内においては、空き地・空き家などを活用したポケットパークの整備など、地域の利用者ニーズに対応した公園づくりを図ります。
・地区と都市拠点とを結ぶ木山川においては、遊歩道や親水公園、自転車道の整備を推進し、河川空間と田園空間を活用した歩行や自転車利用の促進よる緑のネットワーク形成に努めます。また、山地においては、トレッキングや散策などを楽しめるルート整備などに努めます。

【その他都市施設の方針】

・集落地内においては、下水道の維持整備などを図り、居住環境の保全に努めます。
・集落地内の浸水対策に努めます。
・企業の進出による新たな産業用地などの拡大が発生する場合、必要な都市施設について費用対効果を検証し、その結果を踏まえ、公共下水道などの基盤整備に努めます。

【景観形成の方針】

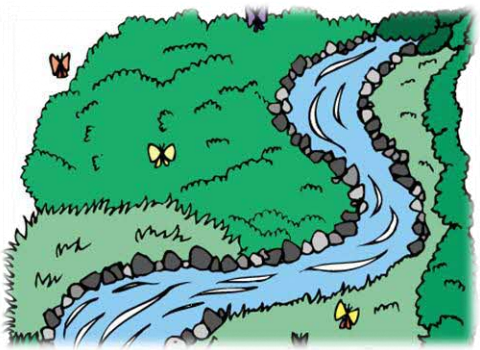
・広大な農地と集落の景観、河川沿いの緑地景観は、地域の田園風景を構成する重要な要素であるため、1次産業の振興と連携した積極的な保全を図ります。
・木山地区、広安地区、福田地区、津森地区にまたがる県道熊本益城大津線（第二空港線）沿道の田園風景については、一体的な景観軸として、積極的な保全に努めます。
・城山の山裾に広がる田園集落地には、社寺などの歴史資源と調和した趣のある景観を有しているため、その保全に努めます。

【都市防災の方針】

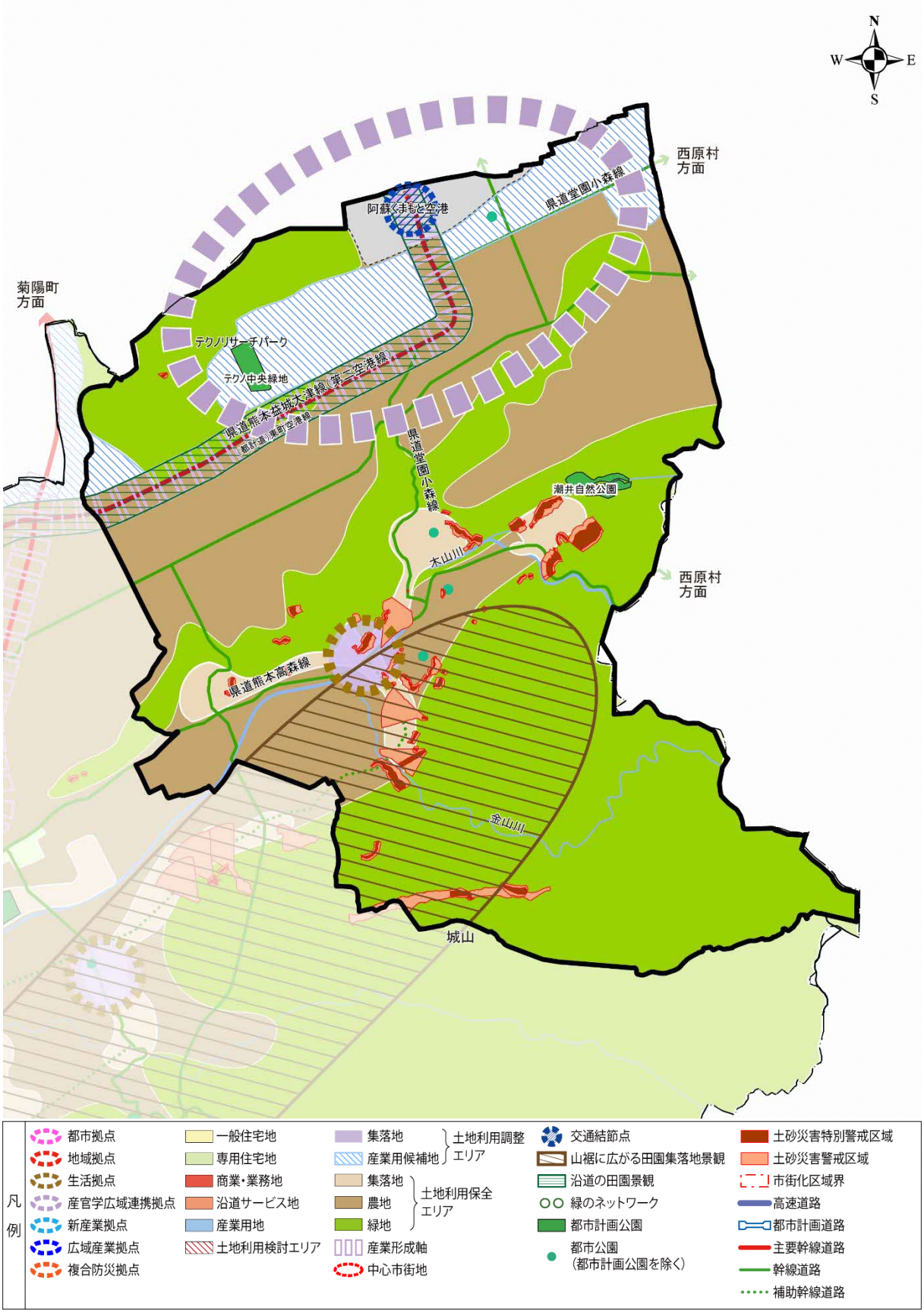
・木山川や金山川に関しては、河川氾濫への対策に努めます。
・集落地内においては、浸水区域の浸水対策や土砂災害の対策に努めます。
・災害時の避難場所となる小学校や公民館については、防災機能の充実を進め、避難路の安全性の確保に努めます。ただし、河川沿いに位置する津森小学校は、木山川氾濫時の浸水想定区域内にあるため、豪雨災害時にも安心して避難できる場所の確保を検討します。
・地域の防災力を高めるため、避難訓練などの防災活動を積極的に行い、地域住民の自助・共助の意識啓発を進めます。

▲津森生活拠点の集落

▲木山川と津森小学校



《津森地区の地区づくり方針参考図》



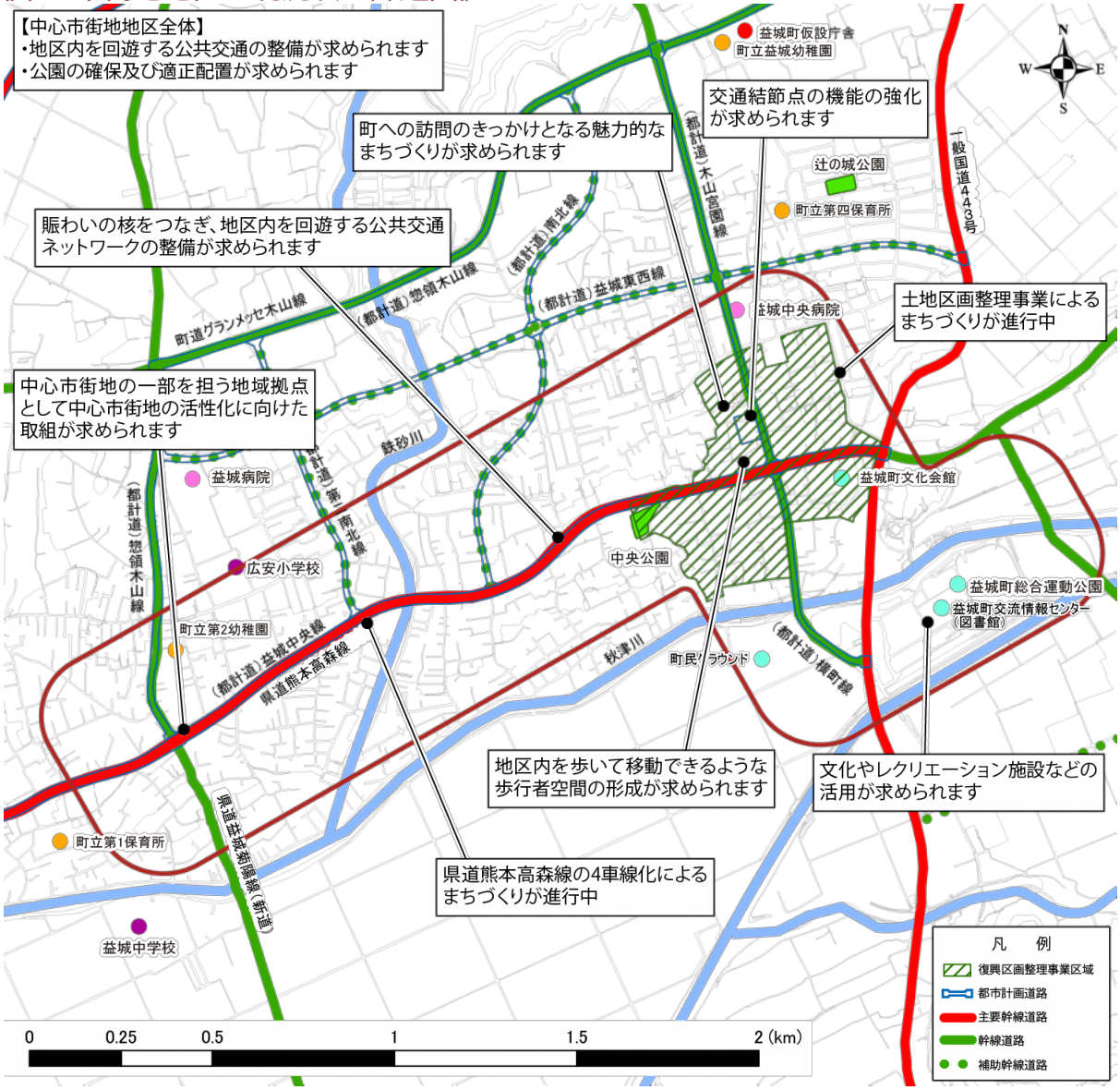
※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。

3-6　中心市街地地区

(1)地区の主要課題

・木山都市拠点や惣領地域拠点については、都市機能の集積が十分ではなく、拠点としての賑わいづくりや魅力向上が求められます。
・阿蘇くまもと空港や益城熊本空港 IC などの広域交通結節点を有することから、観光目的の来街者の集客が求められます。
・中心市街地の魅力向上には、県道熊本高森線の拡幅整備を推進し、沿道の土地利用の更新や街並み景観形成を図ることが求められます。
・中心市街地での滞在時間の拡大や楽しく街歩きしていただくため、中心市街地の回遊性を高める施策やまちづくりイベントなどの賑わいづくりへの取組が求められます。
・町民の中心市街地への来街機会を向上させるため、熊本都市圏などや町内の各拠点との公共交通による連携強化を図ることが求められます。
・活性化に向けた新たな活動の担い手の育成やまちづくりの活動拠点の確保など、将来の中心市街地を担う人材や活動支援が求められます。

《中心市街地地区の現況及び課題図》



（2）地区づくりの方針

【土地利用の方針】

・中心市街地の東部の木山都市拠点では、復興区画整理が実施されており、都市拠点形成のための都市基盤整備が進んでいます。都市拠点の中心となる木山交差点周辺エリアは、益城町の商業の中心として、商業施設や業務施設の集積を図り、まちの商店街などの交流施設や交通結節点の形成を図ります。都市拠点北部に計画されている新庁舎周辺エリアは、多目的広場や駐車場を配置し、公共サービス利用の向上や賑わいの創出を進めます。

・地域拠点である惣領交差点周辺は、地域住民の生活利便を確保するための都市機能の充実を図るとともに、賑わい創出のための拠点整備を図ります。

・県道熊本高森線沿線エリアは、熊本都市圏との一体的な市街地の繋がりを確保するため、都市間連携軸として、公共交通による連携強化と沿道における土地利用の促進を図ります。

・秋津川沿いの交流情報センター（図書館）から町民グラウンドにかけての区域は、スポーツやレクリエーション、文化活動などの複合的な交流の場となっており、文化・レクリエーションエリアとして、木山都市拠点との回遊性の確保やレクリエーション機能の増進など、中心市街地の賑わいを増進する施策を展開します。

【道路・交通体系の方針】

・県道熊本高森線については、４ 車線道路としての拡幅整備を進めており、自動車走行の速達性・安全性を確保するとともに、バス運行の定時性の確保による公共交通利用者の確保に努めます。

・益城町木山交差点付近については、交通広場の整備を進め、町の交通結節点として、路線バスとその他交通との乗り継ぎの利便性向上を図ります。

・中心市街地内に計画されている都市計画道路横町線や都市計画道路第二南北線については、道路の整備実現を図ります。

・中心市街地の利用機会を向上するため、町内または市街地内を回遊するコミュニティバスなどの運行を検討します。

・土地区画整理事業区域外については、狭あい道路の解消や区画再編事業などを活用した敷地整序を図り、市街地環境の改善を図ります。

・中心市街地の回遊性を高めるため、駐車場の確保と歩道整備による歩行者ネットワークの形成を図ります。

【公園・緑地の方針】

・中心市街地では、来街者に楽しい時間を過ごしていただくため、都市公園やポケットパーク、広場などを整備し、交流空間や憩いの場の創出を図ります。

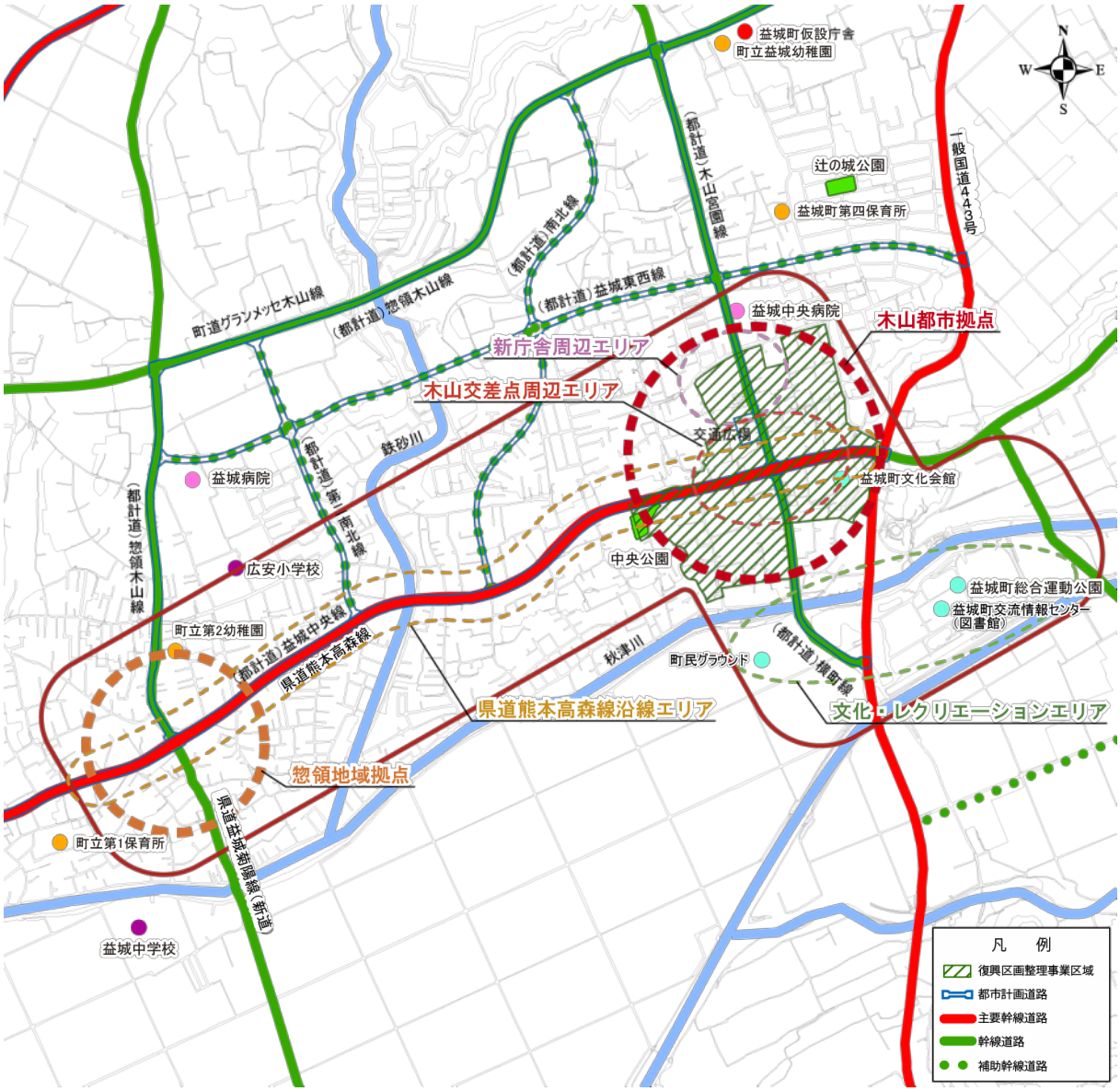
・秋津川や鉄砂川沿いについては、治水事業による河川氾濫の抑制に努めつつ、四季折々の自然風景を楽しんでいただくため、遊歩道や緑道、サイクリングロードの整備を図ることで、町民の散策やサイクリング、中心市街地の回遊性の向上に努めます。

【その他の方針】

・中心市街地内の各施設においては、施設の特性を活かした交流イベントを実施し、来街機会の拡大を図ります。

・県道熊本高森線沿道エリアについては、町のメインストリートになることから、街並み景観に配慮した賑わい空間の創出に努めます。

《中心市街地地区の地区づくり方針参考図》



※方針参考図は概ねの位置を表記したものであり、具体に確定したものではありません。
※土地利用の実現にあたっては、個別法令に基づく手続きが必要であり、事業の実施などを担保するものではありません。